

1874 > 2024

Hachinohe
city
library

集まる
つなぐ
広がる
楽しむ
育む



150th
Anniversary

八戸市立図書館
150周年記念誌

1874 \ 2024

Hachinohe
city
library

集まる
つなぐ
広がる
楽しむ
育む

150th

Anniversary

八戸市立図書館
150周年記念誌

開設百五十周年を祝して

八戸市

市長 熊谷 雄一



今年度、八戸市立図書館は開設百五十周年を迎えました。その歴史は、明治七年（一八七四）、旧八戸藩士が共同で開いた八戸書籍縦覧所に始まり、公立書籍館の併設・統合、町立図書館を経て現在に至ります。明治・大正・昭和・平成・令和と激動する時代の中で、断絶することなく続いた当市図書館の歴史は、全国的に見ても最古級を誇ります。この背景には、江戸時代に八戸の武士・商人・町人たちが、「書物仲間」という本を貸し借りするグループを作っていたことにあります。古くから八戸には、本を貸し借りする文化が根付いており、西洋文化を取り入れた際も、*Library*（ライブラリー）というものに馴染みやすい土壌ができていたのです。この風土を受け継ぐ市民の皆様の支えにより、百五十年の歴史が紡がれてきたことを大変うれしく思います。

市では、第七次八戸市総合計画におきまして、「ひと」を育む政策の一環として、「本のまち八戸」を掲げております。市民が本を読むことよって豊かな心を育み、文化の薫り高いまちとなることを目指し、八戸ブックセンターを拠点に、本と

の出会いや本を介した交流を創出する事業を展開して参りました。

そのような中で、図書館は、図書、郷土資料、古文書、視聴覚資料等を収集、整理、保存し、広く市民の利用に供し、一人一人の心豊かな本のある生活を支える役割を担っております。

市といたしましては、人口減少や少子高齢化の進行、デジタル化やグリーン社会の実現に向けた動きの加速化など、社会環境が大きく変容する時代において、変化に対応した図書館運営が必要と考えております。これまで収集してきた貴重な資料の活用はもとより、デジタル情報など多様な資料の収集等により、これまで以上に皆様に御利用いただけるような事業を展開し、本に親しむまちづくりを推進してまいります。

結びに、これまで市民の皆様から八戸市立図書館に賜りました、多くの御支援・御協力に心より感謝申し上げます。



川戸市立
図書館
1874>2024



開設百五十周年に寄せて



八戸市教育委員会

教育長

齋藤 信哉

八戸市立図書館の歴史は、明治七年（一八七四）、前身である八戸書籍縦覧所が設置されたことに始まり、今年度で百五十周年を迎えました。長年にわたる市民の皆様への御支援に感謝申し上げます。縦覧所は、当初、堀端町にあつた八戸小学校の敷地内に置かれてきました。その後、町立図書館・市立図書館と名前を変えながら、鷹匠小路、堀端町二番地、堀端町一番地、堤町と場所を移し、昭和五十八年（一九八三）に現在の場所（糠塚）に移転・新築し現在に至ります。

さて、市教育委員会では、第三期八戸市教育振興基本計画において、基本理念の目指す教育の姿として「自ら学

び、心身ともに豊かに生きる教育」、「郷土を愛し、郷土とともに生きる教育」を掲げ、豊かな心の育成の一環として読書活動の充実を推進しております。図書館はその重要な拠点の一つであります。当市の知の拠点として、市民の皆様が生涯にわたって活用され、楽しんでいただける図書館となるよう、図書館機能の向上と充実を目指し、読書に親しむ環境づくりに取り組んでまいります。

今後とも市民の皆様には、八戸市立図書館の運営に、御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

ご挨拶

開設百五十周年を迎えて

八戸市立図書館

館長 磯嶋 奈都子



日頃より、図書館をご利用いただき、誠にありがとうございます。八戸市立図書館は、今年度で百五十周年を迎えました。

図書館は、明治七年（一八七四）開設の八戸書籍縦覧所の流れをくむ本館と、平成十四年（二〇〇二）、八戸駅ビル内に開設した図書情報センター、平成十七年（二〇〇五）、南郷村との合併により分館となった南郷図書館の三館体制で運営しております。

八戸市図書館運営方針では、目指す将来像を「集まる つなぐ 広がる 楽しむ 育む 図書館」として掲げ、関連事業を展開しております。

幅広い年代の皆様にご利用いただけるよう、企画展示や読み聞かせのほか、八戸の歴史についての講座や、所蔵している古文書を活用した講習会を開催するなど、多くの市民の皆様に参加いただいております。

今後も、長年にわたり引き継がれてきた貴重な資料を、大切に保存し継承してまいりますとともに、図書館に多くの人が集い、情報と人、人と人とのつながり、未来を担う子どもたちを育み、生涯にわたって活用され楽しめる、魅力ある図書館となるよう、職員一同、二百周年に向けて進んでまいります。

八戸市立図書館
一五〇周年記念誌
目次

2 発刊のことば 八戸市市長 熊谷 雄一

4 ご挨拶 八戸市教育委員会 教育長 齋藤 信哉

八戸市立図書館 館長 磯嶋 奈都子

7 第1章

101～150年の歩み

(昭和50年度～令和6年度)

資料 一五〇周年記念事業

第2章

市史編纂室の歩み

(第1期)(第2期)

第3章

年表

1874年～2024年(明治7年度～令和6年度)

78 参考文献

79 編集後記

50
years
history

第1章

101 ～ 150年の歩み
(昭和50年度～令和6年度)



開館100周年の記念事業の余韻を残したこの年は、新たな100年に向けての記念事業が行われた。それが図書館(本館)の開館記念日である6月15日に合わせた根城図書館(現根城分室)の開設である。根城公民館の一室に蔵書2600冊でスタートした。根城地区で読書奉仕会が結成され、14名で運営にあたった。

そのほか、本館では目の不自由な方向に向けて、録音テープを作成することとし、録音奉仕者の募集と訓練をはじめた。約3か月間で技能を習得した奉仕者は、7月に録音奉仕団体「やまびこの会」を結成し、「声の本」の作成を開始した。



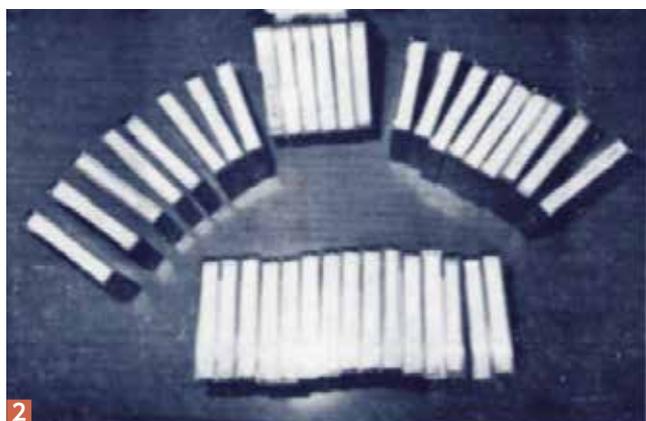
開館から

101年 主な出来事

- 4月 録音奉仕者講習開始
- 5月 「源氏物語」講習会(鮫分室奉仕会で開催)
- 6月 根城図書館(分室)開設
- 6月 講演会「子供の本と世界」、
講師：慶応大学教授・渡辺茂男氏
- 7月 「やまびこの会」結成
- 1月 小倉百人一首かるた大会(根城公民館)



1



2



3



4

- 1 やまびこの会々員(NHK木村局長を囲んで)
- 2 やまびこの会々員が吹き込んだテープ
- 3 根城図書館(分室)
- 4 講演会「子供の本と世界」

1976.4 → 1977.3
昭和51年度

6月、新しい形の分室が誕生した。是川団地内に開設された「なかよし文庫」である。それまで分室は、公民館の一室で運営していたが、なかよし文庫は団地内の中央集会所に開設され、1500冊の図書が並んだ。運営のため、団地内で奉仕会が結成され、毎週土曜日の午後に出しを行った。

3月、図書館で刊行した漢籍目録としては全国で3例目となる『漢籍分類目録』を刊行した。東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター指導のもと、図書館職員が4年をかけて編集した。図書館で所蔵している漢籍は4000点近くあり、一冊一冊の書名・編著者・発行年などを採取し目録を作成した。東洋学を中心に、研究者にとって学問的価値の高い資料である。



開館から

102年 主な出来事

- 5月 映写会及び製本講習会
- 6月 是川分室「なかよし文庫」開設
- 6月 市読連根城史跡めぐり
- 9月 七宝焼講習会
- 12月 聖書講習会
- 3月 『八戸市立図書館漢籍分類目録』を刊行(東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター監修)



- 1 なかよし文庫のテープ・カット
- 2 利用者代表へあいさつする秋山市長
- 3 奉仕会員による図書貸出し風景
- 4 排架された新刊図書

11月、移動図書館が新型「ブックモビルはちのへ」号へと変わった。それまでの「みちのく」号は、本を箱に入れて運搬し、ステーションでは車外に出して貸出しを行っていた。このため、悪天候や冬季には運行ができなかった。これを改善した新型車は、車外に書棚を設置し、約2500冊の本を積んだままで市民に見てもらえるようになった。

また同月、読みきかせボランティア「八戸子どもの本の会」が結成され、翌12月から毎月1回、絵本や紙芝居などの「読みきかせ」を図書館内で行うようになった。初回は、絵本『ひとしずくのなみだ』『11ぴきのねこ』『11ぴきのねこあほうどり』が読まれた。



開館から

103年 主な出来事

- 9月 三八地区読書運動推進大会(長者公民館)
- 11月 移動図書館「ブックモビルはちのへ」号の運行開始
- 11月 「八戸子どもの本の会」結成
- 3月 「八戸市立図書館国書分類目録」一を刊行(国文学研究資料館監修)



1

- 1 新型移動図書館のテープカット
- 2 「ブックモビルはちのへ」命名に乾杯



2

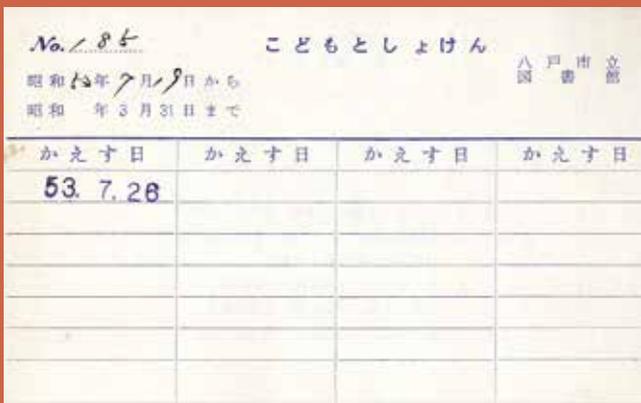


開館から
104年 主な出来事

- 4月 長者文庫開設
- 10月 全国図書館大会(青森市)

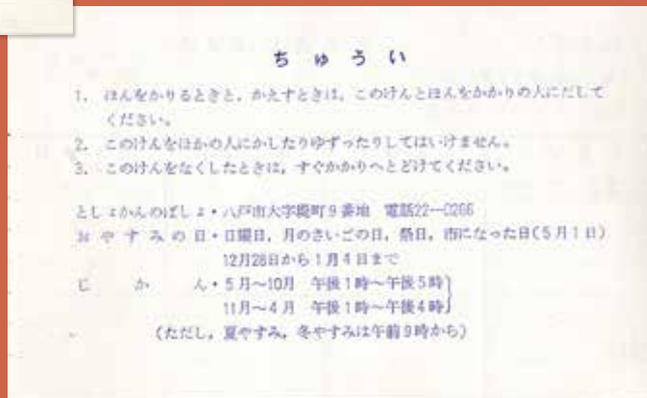
1978.4 → 1979.3
昭和53年度

4月、地区連合町内会と長者読書会の要望で、長者公民館(昭和52年開館)に分室「長者文庫」を開設した。長者文庫には、図書館の図書だけでなく、地区内の書店や町内会から寄贈された図書も設置され、蔵書1500冊でスタートした。奉仕会が運営し、毎週水曜日の午後1時半から4時まで貸出しを行った。



表面

1



裏面



3



2

1 当時の「こどもとしょけん」
2 3 長者文庫開設の集い(長者公民館)



開館から

105年 主な出来事

- 8月 講演会「子供の学習に父母はいかに努力するか」旺文社取締役雑誌局長・見波誠司氏(福祉公民館)
- 10月 東北地区学校図書館大会(八戸市)
- 11月 「出版文化展」開催

1979.4 → 1980.3
昭和54年度

八戸市の市制施行50周年であるこの年は、市内で様々な記念行事が行われた。図書館では11月の読書週間に「目で見る郷土の歩み」と題して出版文化展を行い、市制以降に八戸で出版された図書を多数展示した。展示内容は、手書き、ガリ版刷りなど、出版物の歴史をたどることができるものがあった。



2



1



3



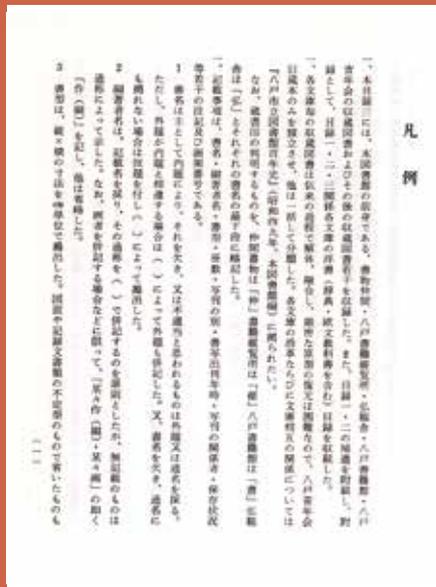
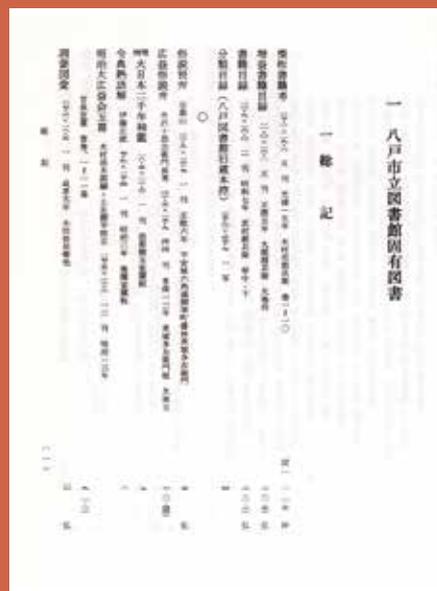
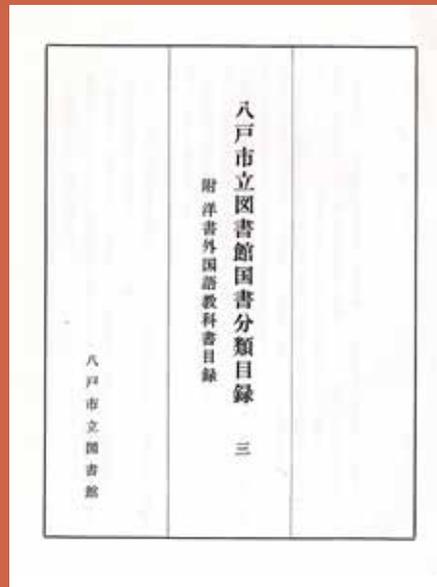
4

1～4 出版文化展の様子

11月、新図書館基本構想が策定され、新図書館建設に向けて動き出した。堤町の図書館は昭和36年に建てられ、十勝沖地震(昭和43年)を経て老朽化、さらに蔵書収蔵スペースが大幅に不足していた。新図書館の建設場所として堤町(同所)や、番町の八戸税務署隣接駐車場(現八戸市美術館)など複数候補に挙がったが、最終的に糠塚の長者公民館隣接地(旧長者小学校跡)に決定し、床面積は約3倍の建物となった。

開館から
107年 主な出来事

- 4月 展示「花シリーズ」
- 5月 こども読書週間行事、放映会「走れメロス・ごんぎつね」、紙芝居「まほうのふで・とんまなおおかみ・バーコーのかいぶつたいじ」、読み聞かせ「くわずにようぼう・古屋のもり・ねずみくんのチョコキ・ひぐま」
- 6月 展示「うみねご自筆原稿」
- 10月 三浦哲郎氏を囲む読書会
- 11月 新図書館基本構想策定
- 11月 長者読書会十周年記念祝賀会
- 12月 展示「郷土資料新刊書」
- 3月 「八戸市立図書館国書分類目録」三を刊行(国文学研究資料館監修)



「八戸市立図書館国書分類目録」三



108年 主な出来事

9月 新図書館起工(岡田新一設計事務所、大館建設工業)

1982.4 → 1983.3
昭和57年度

9月、新図書館が起工した。建設地を掘り下げて囲み、基礎を打ち込むため、掘り下げるところから始まった。

この時、八戸市博物館も建設中であったため、堤町の図書館内に博物館準備部署が設置された。



4



1



2



3

- 1 ゆりの木通りを望む
- 2 長者公民館を望む
- 3 4 現在の正面駐車場



開館から

109年 主な出来事

12月 新図書館竣工

1983.4 → 1984.3
昭和58年度

12月、新図書館が竣工した。当初は、堤町にあったときと同様に、土足禁止とし、靴を脱いでスリッパに履き替える構想だったが、利便性向上のためそのまま入る方式に改案した。



1

- 1 正面入口
- 2 1階フロア
- 3 2階カウンター
- 4 ゆりの木通り側整備



2



3



4

1984.4 → 1985.3
昭和59年度

5月、糠塚に新図書館(現図書館)が開館した。鉄筋コンクリート3階建て、各階ごとに正方形を45度ずらした形で、上空からは八芒星に見える。

また、図書管理のため東北の図書館では初めて、コンピューターを導入した。図書収蔵スペースは、当時東北最大の45万冊を誇った。

6月、八戸市読書団体連合会が、館内に喫茶「らいぶらりい」を開店した。読書団体としては全国で初めて社団法人化し運営にあたった。

1月、第40回国体冬季大会が八戸で行われた。その際、常陸宮殿下・妃殿下が、新しい図書館を視察された。



開館から

110年 主な出来事

- 4月 県内図書館・図書室で相互貸借開始
- 5月 新築図書館(現図書館)開館
- 5月 開設110周年記念および新館開館記念展示「漢籍展」
- 6月 八戸読書団体連合会が館内に喫茶「らいぶらりい」を開店
- 1月 常陸宮殿下・妃殿下の視察



4

1 21階カウンター

2 喫茶らいうぶらりい

3 開館記念式典のパンプレット



開館から

111年 主な出来事

- 7月 「八戸藩日記」を含む古文書が寄贈される
- 9月 第1回古文書解読講習会開催
- 10月 ストーリーテリング等講習会開催

1985.4 → 1986.3
昭和60年度

郷土史家の上杉修氏が八戸藩南部家から購入した「八戸藩日記」を含む古文書を、遺族が図書館に寄贈（有償）した。

それまで図書館に上杉家から寄託されていた資料に加え、上杉家にあった資料など、合わせて約5000点を「上杉家文書」として収蔵した。



ストーリーテリング等講習会(デーリー東北新聞・昭和60年10月9日より)

開館から
112年 主な出来事

- 4月 展示「上杉家文書」
8月 展示「八戸藩政絵図展」

1986.4 → 1987.3
昭和61年度

4月、前年に図書館所蔵となった古文書「上杉家文書」のうち、整理が終わった一部を公開した。
8月には、「上杉家文書」に含まれる江戸時代の絵図の展示を行った。



展示「上杉家文書」(デーリー東北新聞・昭和61年4月10日より)

11月、読書週間行事として、「第2回藩政絵図」展を開催した。前年に好評だった絵図展の第2弾で、上杉家から寄贈された未公開の絵図を展示した。
 3月、是川分室(是川公民館内)を閉鎖した。

開館から
113年 主な出来事

- 10月 読書週間「書店・図書館にはない、ちょっと変わった本のミニ展」
- 11月 展示「第2回藩政絵図展」
- 3月 是川分室(是川公民館内)閉鎖



1 2 3 閉鎖された是川分室

開館から
114年 主な出来事

11月 読書週間「手づくり絵本講習会」

1988.4 → 1989.3
昭和63年度

11月、読書週間行事として、初めて「手づくり絵本」の講習会を開催した。青森県児童文学研究会会長の北彰介氏を講師に迎え、様々な綴じ方を体験できる貴重な機会となった。



手づくり絵本講習会(デーリー東北新聞・昭和63年11月5日より)

10月、読書週間行事として「八戸藩政時代の絵図と市内タウン誌展示会」を開催した。展示した市内タウン誌は、「うみねこ」「東北プレイガイド」「アミューズ」「おれんじ」「八戸文化通信」などであった。
 収蔵スペース増加のため、3階書庫を2層式に改修し、書架344台を設置した。



開館から

115年 主な出来事

10月 読書週間「八戸藩政時代の絵図と市内タウン誌展示会」
 3階書庫を2層式に増築



1



2



3



4

- 1 設置前の3階の様子
- 2 3階1層に書架を設置
- 3 3階2層床張中
- 4 完成した2層

開館から
116年 主な出来事

- 5月 講演会「子どもの読書について」(山田剛也氏)開催
10月 八戸大学(現：八戸学院大学)創立10周年記念「日本の古典と各種雑誌創刊号展・八戸市の文学碑展」

1990.4 → 1991.3
平成2年度

八戸大学(現：八戸学院大学)創立10周年を記念し、10月に読書週間行事として「日本の古典と各種雑誌創刊号展・八戸市の文学碑展」を開催した。古典伝承の流れや、明治・大正・昭和に創刊された雑誌、及び小山内時雄名誉学長が撮影した県南の文学碑の写真を展示した。そのほか、同大学教員の著作も展示した。



講演会「子どもの読書について」(デーリー東北新聞・平成2年5月10日より)

図書館の活動を市民に知ってもらう手段として、一時途絶えていた「図書館だより」の再発行を始めた。

11月、秋の読書週間に「あのなっす・そさえて」展を開催し、初日には歌人山根勢五氏による講演会を開催した。「あのなっす・そさえて」は、昭和22年（1947）に発足した文芸団体に、八戸弁で呼びかける言葉「あのなっす」と、団体を意味する「ソサエティ」から命名された。「あのなっす」の活動は、戦後八戸の文芸活動の火付け役ともなり、後年「八戸ルネッサンス」の走りともいわれた。

12月、八戸地域の団体・事業所のロビーを市民に開放し、様々なジャンルの作品を一斉に展示することで、八戸の街を一つの美術館とする企画「ロビーツアー」に、忠臣蔵をテーマとして図書館も参加した。



開館から

117年 主な出来事

- 4月 展示「折形と水引」
- 5月 展示「おんなじおんなじ絵本」
- 6月 展示「角川短歌賞受賞梅内美華子さん」
- 7月 展示「花の名をもつ小説」
- 8月 展示「日本の白書」
- 9月 展示「文学にみるふるさとの光景」
- 10月 展示「源氏物語より」
- 11月 読書週間「あのなっす・そさえて」展
- 11月 展示「ベストセラー1981～1991」
- 12月 展示「浅野内匠家来口上」(東北電力主催ロビーツアー参加)
- 1月 展示「サル学の本」
- 2月 展示「春がくる節分」
- 3月 展示「寄贈図書館の紹介」



1

1 山根勢五氏の講演
 2 映画会・紙芝居・読みかぜの集い



2

1992.4 → 1993.3
平成4年度

9月、学校週5日制とともにできた月一回の「ゆとりの日」に合わせて、「読みきかせ」の回数を増やすことにした。

10月、「第26回児童に対する図書館奉仕全国研究集会」が青森市で開催された。当館も開催県の事務局図書館の一つとして、分科会の司会を務めるなど、全国の図書館関係者と交流を深めた。

同月、江戸時代の思想家・安藤昌益の没後230年・生誕290年を記念して「安藤昌益国際フェスティバル in 八戸」が開催され、図書館も共催事業として「安藤昌益資料」展を行った。昌益は、八戸に居住し町医者をしてきた時期があり、思想を受け継いだ弟子が多く、八戸には関連資料が残されている。

11月、移動図書館が新しくなった。「ブックモビルはちのへ」号(3台目)は、蔵書2700冊を積載して運行を始めた。



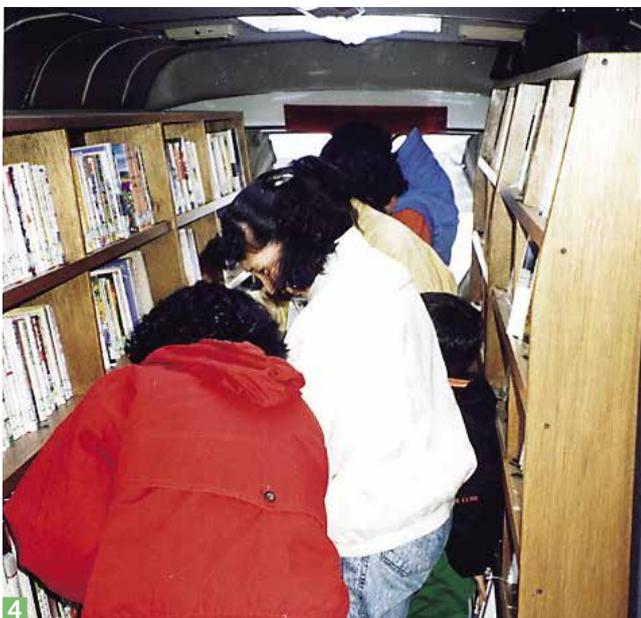
開館から

118年 主な出来事

- 4月 展示「新社会人読書のすすめ」
- 5月 展示「はちのへの女性の本」
- 6月 展示「一字の本」
- 7月 展示「年鑑いろいろ」
- 8月 展示「東山魁夷の本」
- 9月 展示「敬老の日にすすめる本」
- 9月 月1回「ゆとりの日」の読みきかせを始める
- 10月 展示「安藤昌益資料展」
- 10月 読書週間「私の一冊」展
- 10月 展示「八戸市のおもな出版物」
- 11月 移動図書館3台目「ブックモビルはちのへ」号運行開始
- 11月 展示「八戸市立図書館蔵書印の移り変わり」
- 12月 展示「明治・大正・昭和・平成の教科書」(ロビーツアー参加)
- 1月 展示「おおきい本、ちいさい本」
- 2月 展示「八戸郷土カルタ」
- 3月 展示「世界の絵本」



1～3台目「ブックモビルはちのへ」号



4

10月10日から翌年1月16日まで、全館冷房増設工事のため長期休館となった。休館中は、利用者の利便性を考慮し、移動図書館巡回の継続、書庫の一部や廊下を使つての貸出し、美術館での新聞や雑誌の閲覧などを行った。

再開後の2月、企画展「北村小松資料展」を開催した。これは前年6月に東京在住の遺族から寄贈された関連資料のお披露目展だった。

同月、八戸中央ロータリークラブから、青少年育成のための本を購入してほしいと、寄付を受けたことを機に、活字離れが懸念されている中高校生を対象とした「ヤングアダルトコーナー」を設置した。



開館から

119年 主な出来事

- 4月 展示「漫画「サザエさん」」
- 5月 展示「明治の官報」
- 6月 展示「八戸市立図書館記念日」
- 7月 展示「おまつりがやってくる」
- 8月 展示「家族が語る作家への慕い」
- 9月 展示「杵木田龍善直筆原稿」
- 10月 冷房工事のため休館(10/10~1/16)
- 2月 展示「北村小松資料展」
ヤングアダルトコーナー設置



1



2



3



4

- 1 北村小松資料展テープカット
- 2 北村小松資料展の様子
- 3 休館中、廊下で貸出し
- 4 休館工事中(1階カウンター)

1994.4 → 1995.3
平成6年度

図書館の仕事を知らうため、小学生向けのビデオ「唯ちゃんの図書館見学」を作成した。内容は、小学2年生の唯ちゃんが夏休みに図書館に見学に来たという設定である。

11月、秋の読書週間に「三浦福寿の意匠・仕事展」を行った。福寿氏は、地元出版物のイラストを数多く手がけており、「吐夢(とむ)」のペンネームをもっている。これについて氏は、「福寿(本名)ってのは、めでたすぎてなす」と語っていた。

12月28日、三陸はるか沖地震で書棚が倒れたり、本が散乱したりと、足の踏み場もない状態となった。翌日から全職員が出動して復旧作業を行い、1月5日には平常どおり開館した。



開館から

120年 主な出来事

- 11月 読書週間「三浦福寿の意匠・仕事」展
- 12月 三陸はるか沖地震で被災
- 12月 展示「絵本・くらべてみよう」(ロビーツアー参加)



1



2



3

1～4三陸はるか沖地震被害の様子



4

芦屋市立図書館（兵庫県）の館長が来館した。これは、八戸コミュニティボード（工藤欣一会長）主催の「阪神大震災八戸市民ボランティア大会フォーラム」に参加するためだった。阪神・淡路大震災時に八戸で結成された市民ボランティアは、被災地に向き、避難場所となっていた芦屋市立図書館で炊き出しを行うなど、物資援助を行っていた。芦屋市立図書館だより「みんなの本だな」には、次のように記されている。

数えきれない援助の中でも、青森県八戸市からの救援は、最も際立ったボランティア活動の一つでした。八戸市自身が、昨年末の十二月二十八日に発生した「三陸はるか沖地震（マグニチュード七・五）」で多大な災害を被り未だ日常生活や経済面などの痛手から立ち直れない時期にもかかわらず、「傷の浅い者が、深傷を負った人を助けるのは当然だ。」と決意され、交通事情もまだまだ厳しい中、遠路、三回にわたって「芦屋」を見舞われました。回を追うごとに、わたしたち

の生活の実態、避難を余儀なくされた人々の気持ちに添う活動をされたのでした。

8月から、月一回、土日の閉館後に1階入口ホールで「ライブライイ・コンサート」を始めた。



開館から

121年 主な出来事

- 8月 月1回ライブライイ・コンサートを開始
- 10月 読書週間「松和文庫」展
橋本和吉・安永寿延・佐藤亮一の図書寄贈



1 2



3 4



1 2 ライブライイ・コンサートの様子
 3 松和文庫展講演会(出版評論家・小林一博氏)
 4 松和文庫展の様子

1996.4 → 1997.3
平成8年度

2階の喫煙コーナーは、煙草で絨毯が焦げることがよくあったため1階に移し、代わりに、展示ケースを設置した。

5月、地球環境をテーマに市民が参加・活動するイベント「アースデイ八戸96」の一環として、兵庫県芦屋市から市民の花「コバノミツバツツジ」が図書館に記念植樹された。

秋の読書週間に「佐藤亮一」展を開催した。佐藤亮一氏は、名川町出身の翻訳家で、著名な訳書が多数ある。また、アジア・太平洋戦争後の自らの収容所生活をつづった『北京収容所』、明治期に鮫町(現八戸市)で起こった漁民一揆を記録した『鯨会社焼き打ち事件』などの著書もある。

12月に、軽自動車専用として駐車スペースを5台分増設した。



開館から

122年 主な出来事

- 4月 貸出冊数を3冊から5冊へ変更
- 5月 兵庫県芦屋市民の花「コバノミツバツツジ」を記念植樹
- 11月 読書週間「佐藤亮一」展
- 12月 駐車場(軽自動車用)増設



- 1 2階ガラス展示ケース
- 2 映写会・紙芝居・絵本の読みかかせの集い
- 3 佐藤亮一展
- 4 増設した駐車スペース

安藤昌益資料と安永寿延資料（安藤昌益研究の第一人者）を一ヶ所にまとめ、新コーナーを設けた。

秋の読書週間には、「脚本家小国英雄」展を開催した。小国氏は、黒沢明監督とのコンビで「生きる」「七人の侍」「乱」「赤ひげ」など、世界に誇る数々の名作の脚本を手がけた、八戸出身の脚本家である。

1月、「ライブラリィ・キネマ」という新しい試みを行った。閉館後に1階の入口ホールで映画を上映した。

この年は、八戸出身の菅田良哉監督が、自ら「ヒロシマという名の少年」を上映してくれた。



開館から

123年 主な出来事

- 11月 読書週間「脚本家小国英雄」展
- 1月 ライブラリィ・キネマ「ヒロシマという名の少年」を放映
- 1月 所蔵する「八戸藩日記」が市文化財に指定



1



2



3



4

- 1 安藤昌益・安永寿延コーナー
- 2 小国英雄展
- 3 ライブラリィ・キネマ
- 4 「八戸藩日記」が市の文化財に

1998.4 → 1999.3
平成10年度

5月、利用者専用検索端末機2台を1階に設置、利用者が自分で蔵書を検索できるようになった。

11月、秋の読書週間の新しい試みとして「本のリサイクル・フェア」を実施した。事前に市民から不要になった本を一人20冊まで引き取り、6日間のフェア中に、一人20冊まで自由に持ち帰ってもらう企画である。



開館から

124年 主な出来事

- 4月 第2期八戸市史編纂事業開始
- 5月 利用者専用検索端末機設置
- 11月 読書週間「本のリサイクル・フェア」開催
- 1月 展示「二十歳のあなたへ」
- 2月 展示「郷土作家夏堀正元を悼んで」
- 3月 展示「ヤングアダルトへお薦めの本あれこれ」



1



2



4



3

1 利用者専用検索端末機
2～4 本のリサイクル・フェア

5月、市制施行70周年記念パネル展を行った。これは、記念式典の際に八戸市公会堂で掲示したパネルを、当館に移して継続展示したものである。昭和4年(1929)の市制開始前に亡くなった八戸ゆかりの人物17人をとりあげた。

既存駐車場の斜め向かい、石万本鍛冶町駐車場に6台分の駐車場スペースを増設した。ここでは、図書館で発行した駐車許可書を車内に設置してもらうという管理方法をとった。

11月、読書週間行事として、「本のリサイクル・フェア」を2日間に縮小して実施。「図書館を使った”調べる”学習賞コンクール受賞作品」展を4日間にわたり開催。また、調べる学習に関する講演会を開催した。



開館から

125年 主な出来事

- 4月 展示「介護の本」
- 5月 市制施行70周年記念パネル展「八戸近代の礎を築いた人々」
- 5月 展示「大型しかけ絵本」(青森県立図書館より借用)
- 6月 展示「昭和4年当時の八戸を知る本(市制施行70周年)」
- 7月 展示「宇宙飛行士の本(アポロ月着陸30周年)」
- 8月 展示「ミクロの世界ウォッチング展」(八戸インテリジェントプラザ共催)
- 8月 展示「名書・初版本(復刻)」
石万本鍛冶町駐車場に駐車場増設
- 9月 展示「高齢化社会に関する本(国際高齢者年)」
- 10月 展示「三戸町出身馬場のぼるの絵本」
- 11月 読書週間「図書館を使った”調べる”学習賞コンクール受賞作品」展
- 11月 展示「県内図書館の貸し出しベスト10」
- 11月 展示「小学校国語教科書に出てくる本」
- 12月 「村田恵利、佐藤花純」ピアノリサイタル
- 12月 展示「Merry Christmas!」



1 2 先人パネル展の様子
 3 増設した駐車スペース
 4 本のリサイクル・フェア

2000.4 → 2001.3
平成12年度

この年は、国会の決議で「子ども読書年」となった。

読書週間には、調べる学習関係の企画を行い、「調べ学習のための図書館利用法」という小冊子を作成し、配布した。

9月、新たに市内中学校で始めた職場体験「さわやか八戸グッジョブウィーク」では、2校の中学生を受け入れた。



開館から

126年 主な出来事

- 9月 さわやか八戸グッジョブウィークで中学生受け入れ
- 10月 市読連合同読書会・テーマ本『芙蓉の花』(天内みどり著)



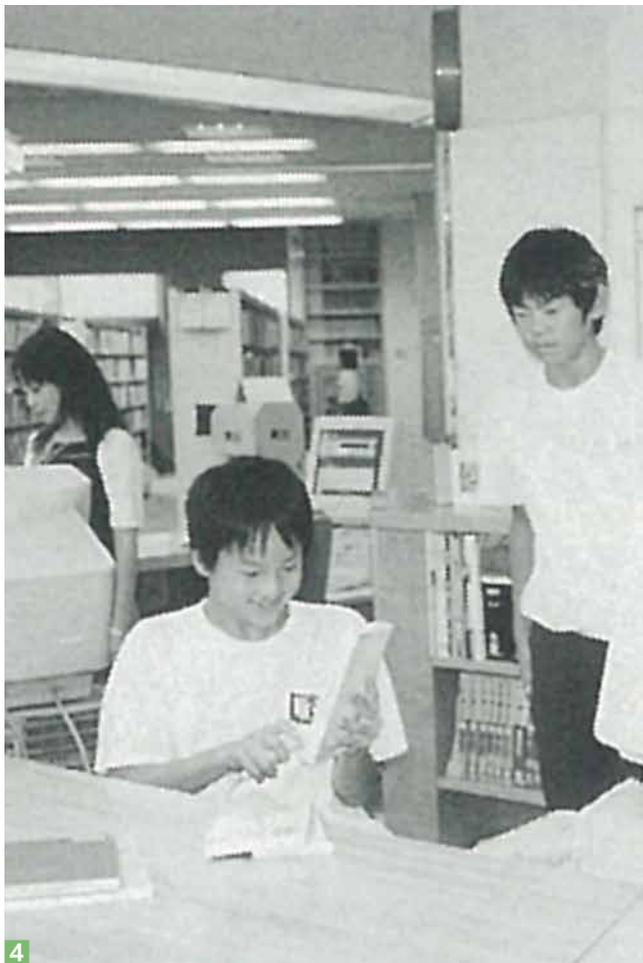
1



2



3



4

- 1 紙芝居・絵本の読みかせと映写会
- 2 むかし話・パネルシアターと映写会
- 3 本のリサイクル・フェア
- 4 職場体験中の中学生



開館から

127年 主な出来事

- 4月 紙芝居・絵本の読み聞かせと映写会「だるまちゃんとてんぐちゃん」
- 5月 展示「しかけ絵本・大型絵本」
- 7月 夏休み子ども学習相談
- 8月 童話劇グループ「七色のスリッパ」公演
- 8月 夏休み映写会・紙芝居・絵本の読み聞かせの集い
- 9月 グループ「野火」によるブラックシアター「おかあさんのはなし」「花咲山」
- 11月 読書週間「歌人梅内美華子」展
- 12月 ストーリーテリングと絵本の読み聞かせの「クリスマスお話し会」
- 1月 所蔵する「遠山家日記」「真法弟算記」が市文化財に指定

2001.4 ↓ 2002.3
平成13年度

11月、秋の読書週間事業として「歌人梅内美華子」展を開催した。梅内氏は、八戸高校出身の歌人で、作品のほか、原稿や本人自筆の色紙などを展示した。

1月、所蔵している「遠山家日記」「真法弟算記」が市指定文化財になった。



1



4



2



3

1 展示「しかけ絵本・大型絵本」

2 3 梅内美華子展

4 七色のスリッパによる「どんぐりと山猫」

2002.4 → 2003.3
平成14年度

拡大読書器を新型機に替え、インターネットコーナーを設置した。

10月、平中駐車場を設置し、既存の駐車場と合わせて約1000台の駐車が可能となった。

同月、秋の読書週間行事として、「藤田健次作品」展と講演会「ふじたけんじのドタバタ日記」を開催した。鶴田町出身の藤田氏は、版画や漫画、エッセイなどの作品を手がけ、著書『看護婦のオヤジがんばる』シリーズは、映画化されている。展示期間中、連日にわたって藤田氏本人が来場し、作品について解説して下さった。

11月21日、八戸市図書情報センターが八戸駅ビル1階に開館した。本・雑誌のほか、当時本館では貸出していなかった視聴覚資料の貸出しを行った。



開館から

128年 主な出来事

- 4月 紙芝居・絵本の読み聞かせと映学会「いじめっこ狼とナナちゃん」
- 5月 展示「しかけ絵本・大型絵本」
- 6月 インターネットコーナー設置
- 6月 読みかせボランティア「八戸おはなしの会紙風船」結成
- 8月 夏休み子ども学習相談
- 8月 講演会「調べる学習について」(中村雅胤氏)
- 8月 展示「第5回図書館を使った“調べる”学習賞コンクール入賞作品展」
- 10月 読書週間「藤田健次一作品展と講演会」
- 10月 平中駐車場新設
- 11月 図書情報センター開館



1



3



2

1 新設インターネットコーナー
2 3 藤田健次作品展

図書館本館・図書情報センター・移動図書館の本・雑誌・視聴覚資料をホームページから検索できるようにした。これにより、資料の排架場所や状態(貸出中など)が図書館に来なくてもわかるようになった。

8月、八戸コミュニティボードから、兵庫県芦屋市との友情の木「コバノミツバツツジ」2株が寄贈され、正面玄関前に植樹された。

10月、秋の読書週間に、児童文学賞受賞作品を展示した。また、八戸こどもの本の会代表・山田剛也氏による講演会「読み聞かせて広がる絵本の楽しみ」を開催した。山田氏の実体験からの講演や、読みきかせの実演などを行った。

同月、「八戸市立図書館所蔵「読本」展」が国文学研究資料館(東京都)で行われた。当館所蔵の読本は、八戸藩主南部家が所蔵していたもので、全国的に見ても保存状況が良好な資料として注目された。

図書情報センターでは、「三浦哲郎ミニパネル展」を行った。三浦氏の母校

である八戸高等学校の協力を得て、色紙やサイン本などを展示した。



129年 主な出来事

- 図書館ホームページに蔵書検索を作成
- 7月 夏のおはなし会開催(八戸おはなしの会紙風船協力)
- 8月 兵庫県芦屋市との友情の木「コバノミツバツツジ」2株、図書館前に植樹(八戸コミュニティボード寄贈)
- 10月 読書週間「児童文学賞受賞作品」展
- 10月 八戸市立図書館所蔵「読本」展(東京都・国文学研究資料館)
- 1月 朗読とお話のしかたの講習会・おとなのためのお話と朗読の会(県立図書館長・鈴木健二氏、長者公民館)



1



2



3



4

- 1 コバノミツバツツジ植樹
- 2 リサイクル・フェア
- 3 国文学研究資料館での展示
- 4 三浦哲郎ミニパネル展

2004.4 → 2005.3
平成16年度

図書情報センターの正面入口ガラスにウインドウグラフィックを始めた。

貸借システムの改善を行い、それまでは借りた図書・雑誌は、借りた場所でしか返却できなかったが、図書館本館・図書情報センターどちらへも返却できるようにした。

秋の読書週間は、前年10月に国文学研究資料館の「読本」展で展示された読本や、当館所蔵の古文書などを展示した。また、劇作家・小寺隆韶氏に「図書館よもやま話」として、図書館にまつわる話を講演いただいた。

11月、三浦哲郎氏の「名誉市民」顕彰にあわせて、三浦哲郎文学コーナーを設置した。

2月1日、南郷村立図書館が開館、3月31日に、南郷村が八戸市と合併、4月1日から新「八戸市」となった。



130年 主な出来事

- 4月 展示「おすすめの本」
- 5月 パネルシアターを使ったおはなし会(八戸童話会)
- 10月 展示「ベストセラー20年」
- 11月 読書週間「読本展&図書館資料展」
- 11月 講演会「図書館よもやま話」(小寺隆韶氏)
- 11月 三浦哲郎文学コーナー設置
- 1月 ライブライオンコンサート「ぬくもりラヴソングのタベ」(ライブラリーズ)
- 2月 南郷村立図書館開館
- 3月 八戸市と南郷村合併(4/1～新「八戸市」)



1 展示「おすすめの本」
 2 読本展
 3 小寺隆韶氏の講演
 4 三浦哲郎文学コーナー

本館でCDの貸出しを開始した。
 また図書館ホームページをリニューアルした。

6月、当館所蔵の読本に親しんでもらおうと「読本」展を開催した。八戸の夏祭り八戸三社大祭の山車の題材となった読本を中心に展示し、期間中には読本講習会も行った。

この年、八戸市では、市出身の芥川賞作家三浦哲郎氏を八戸市名誉市民として顕彰したこと、および作家生活50周年を迎えたことを記念して、「三浦哲郎文学フェスタ」を開催した。図書館では、その一環として秋の読書週間に「三浦哲郎文学」展を開催。図書のほか、三浦氏の恩師井伏鱒二の写真や、大学時代を過ごした青雲寮での写真などを展示した。あわせて講演会を開催し、三浦文学の、読者を引きつける魅力的な書き出し、方言の活用、句読点の一つひとつにまでこだわった巧みな文体などについて森林康氏（元市教育委員会教育長）にお話しいただいた。



開館から

131年 主な出来事

- 4月 展示「アンデルセン展～生誕二百年記念～」
- 4月 図書館(本館)でCDの貸出し開始
- 6月 展示「読本展」
図書館ホームページリニューアル
- 10月 読書週間「三浦哲郎文学」展
- 11月 三浦哲郎作品朗読会
- 12月 クリスマスおはなし会



1



2



4



3

- 1 読本展
- 2 アンデルセン展
- 3 三浦哲郎文学展
- 4 クリスマスおはなし会

2006.4 → 2007.3
平成18年度

4月、図書館ホームページから貸出中の本を予約できるようにした。携帯電話のiモードからも利用可能にした。

「本と雑誌のリサイクルフェア」を、初めて屋外で開催した。天候にも恵まれ、開始前から行列ができるほど盛況となった。

12月、赤ちゃんと一緒にゆっくり絵本を読むスペースとして活用できることを目指し、1階のおはなし会室に「赤ちゃん絵本コーナー」を設置した。

久保節文庫コーナーを設置した。それまで市庁内議会事務局図書室に所蔵していた、八戸市初代助役で書家である久保節の蔵書を、広く市民に活用いただくため、図書館に移管したものである。



開館から

132年 主な出来事

- 4月 インターネット予約開始
- 4月 展示「ムーミン展～生誕60周年記念～」
- 10月 読書週間朗読会「三浦哲郎文学を聴くタベ」
- 11月 読書週間行事講演会「映画王国青森県」(熊谷拓治氏)
- 12月 赤ちゃん絵本コーナー設置
久保節文庫コーナー設置



1



2



4



3

- 1 ムーミン展
- 2 久保節文庫コーナー
- 3 4 赤ちゃん絵本コーナー

6月、インターネット予約システムをバージョンアップし、予約した図書との連絡をメールで通知できるようにした。

同月、文庫本コーナーを設置し、小説の文庫をまとめて排架できるようになった。

さらに、「図書館だより」の発行を、年2回から年3回に増やした。

秋の読書週間の期間中、貸出冊数を通常の5冊から8冊に増やす試みを行った。

読書週間の展示は、「おすすめします!私の一冊」として、事前アンケートで調査したお勧めしたい本を、理由とともに紹介した。



133年 主な出来事

- 4月 展示「おいしい絵本を召し上げれ～絵本に出てくるお菓子たち～」
- 6月 インターネット予約メール通知開始
文庫本コーナー設置
- 10月 読書週間・市民参加型展示「おすすめします!私の一冊」
- 11月 読書週間「読み聞かせ」講習会(中村幸子氏)
- 12月 展示「クリスマス絵本&しかけ絵本」
- 1月 展示「芥川賞・直木賞歴代受賞作品」



1



4



2



3

1 2 おすすめします! 私の一冊
 3 4 読み聞かせ講習会

2008.4 → 2009.3
平成20年度

4月、岩手県久慈市・二戸市と「図書館等相互利用に関する協定」を締結した。図書館の利用者登録は、基本的に市内在住または市内に通勤・通学している方が対象だったが、この協定により3市に在住の方は、3市のどこの図書館でも利用登録することが可能となった。

※なお青森県内は、「青森県内共通利用券」で相互利用が可能。

10月から南郷図書館のシステムが、八戸市立図書館・図書情報センターに統合され、同一の図書館システムで運営されることとなった。これにより同じ利用カードで図書を借りることができるようになった。



開館から

134年 主な出来事

- 4月 図書情報センターで児童図書の貸出スタート
- 4月 展示「昔ばなしっておもしろい!」
- 4月 岩手県久慈市・二戸市と図書館の相互利用を開始
- 7月 展示「図書館を使った調べる学習賞コンクール受賞作品」「デーリー東北児童生徒読書感想文コンクール課題図書」
- 8月 雑誌のリサイクルフェア(図書情報センター)
- 10月 展示「源氏物語の世界」
- 10月 図書館・図書情報センター・南郷図書館の図書館システムを統合
- 11月 読書週間「三浦哲郎文学講演会」(立花義康氏)、「大人のための三浦哲郎朗読会」
- 12月 展示「クリスマス絵本&しかけ絵本」
- 1月 「ちいさなこどものためのわらべうたと絵本の会」開始(八戸おはなしの会紙風船)
- 1月 大塚甲山文庫コーナー設置
- 3月 展示「新社会人に贈るおすすめ本」



1 源氏物語の世界
 2 三浦哲郎文学講演会
 3 本館のリサイクル・フェア
 4 夏のおはなし会

4月、南郷図書館が八戸市立図書館の所管となり、八戸市の図書館が3館体制になった。

同月、市制施行80周年を記念し「八戸市八十年の歩み」と題して、市制記念誌や市制施行当時の新聞、当時の図書館の様子などを展示した。

また、同年は図書館移転25周年記念の年でもあり「ベストセラー展」と題して、移転してから25年間のベストセラー本を展示した。

7・8月の土曜日に開館時間を1時間延長する試みを行った。結果、利用者数が増えなかったことがわかった。

10月、中高生を対象とした図書を排架したヤングアダルトコーナーの場所を移し、ティーンズコーナーとして新設した。



開館から

135年 主な出来事

- 4月 図書館が3館体制になる(本館・図書情報センター・南郷図書館)
- 4月 展示「ガーデニング」「子育て」「ロングセラー絵本」「八戸市80年の歩み-市制施行80周年記念-」
- 5月 展示「環境問題」
- 6月 展示「ウェディング」
- 7月 7・8月土曜日開館1時間延長試行
図書館移転25周年記念「ベストセラー展」
- 7月 展示「宿題にも役立つ!夏休みのおすすめ本」
- 8月 展示「健康・料理(ヘルシー)」
- 9月 展示「防災を考える」「シニア世代におくる本」
- 10月 読書週間・太宰治生誕100年記念太宰治文学講演会「太宰文学を考える」(市川溪二氏)、「太宰治生誕100年記念展示」
「太宰作品朗読会」
ティーンズコーナー設置
- 12月 展示「クリスマス絵本&しかけ絵本」
- 1月 展示「2009年話題になった本」「新成人へ贈る本」



1



2



4



3

1 2 太宰治文学講演会

3 リサイクル・フェア

4 太宰治生誕100年記念展示

2010.4 → 2011.3
平成22年度

4月、岩手県軽米町と図書館等の相互利用を開始した。

7月、移動図書館が新しい「ブックモビルはちのへ」号(4台目)となった。積載図書は、約3500冊に増加した。

3月11日、東日本大震災が発生した。開館中だったため、来館者を館外に避難させた。けが人などの被害はなかった。

停電で館内照明がつかず、移動図書館車庫のシャッターなども動かなくなったため、臨時閉館とした。

南郷図書館では、ガラスが割れる被害があり、3館すべてで書棚から本が落ち散乱した。



開館から

136年 主な出来事

- 4月 岩手県軽米町と図書館等の相互利用を開始
- 4月 展示「お出かけ・行楽の本」「まどみちお」「健康に関する本」
- 5月 展示「よい絵本」「映画原作・ドラマの本」
- 6月 展示「環境月間企画」「食育月間企画」
- 7月 移動図書館4台目「ブックモビルはちのへ」号運行開始
- 9月 展示「三浦哲郎追悼展」
- 10月 はちのへホコテンでリサイクル・フェア
- 3月 東日本大震災で被災



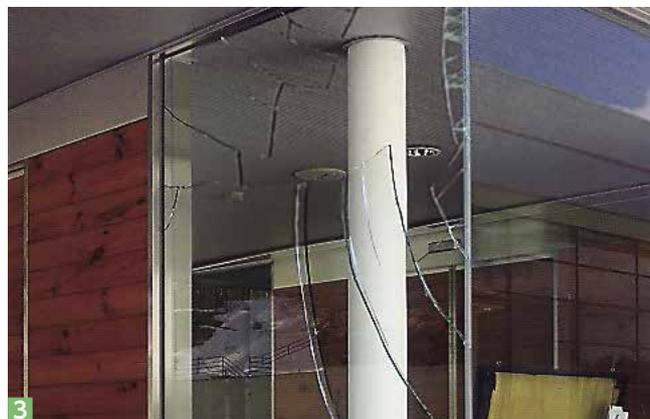
1



4



2



3

- 1 はちのへホコテンでリサイクル・フェア
- 2 東日本大震災で被災した本館
- 3 4 東日本大震災で被災した南郷図書館

この年は新コーナー設置の多い年となった。

6月、前年に亡くなった八戸出身の芥川賞受賞作家・三浦哲郎氏のコーナーを2階に新設した。著書のほか、新聞切抜、揮毫した文学碑のパンフレットや、インタビューのDVDなどを排架した。

10月、八戸に関する図書をまとめた「八戸コーナー」と、新書のみをまとめた「新書コーナー」を1階に設置した。

3月、南郷図書館に三浦哲郎氏の書齋を再現した「三浦文学の部屋」を設置した。遺族から寄贈された三浦氏が使用した机や、文房具類を展示した。



137年 主な出来事

- 4月 南郷図書館、CD・DVD貸出し開始
- 4月 展示「馬場のぼる」(三戸郵便局より資料借用)
- 5月 展示「ベストセラー27年」「新書を読む」「世界遺産を巡る」
- 6月 三浦哲郎文学コーナー設置
- 10月 八戸コーナー、新書コーナー設置
- 10月 はちのへホコテンで読み聞かせ
- 12月 持込パソコン利用席(4席)設置
- 12月 展示「しかけ絵本」「第一回八戸市図書館を使った調べる学習コンクール作品展」
- 3月 南郷図書館に「三浦文学の部屋」を設置



1



2



4



3

- 1 馬場のぼる展
- 2 ベストセラー27年展
- 3 4 はちのへホコテンで読み聞かせ

2012.4 → 2013.3
平成24年度

5月、八戸市で開催している「八戸市民大学講座」にあわせて、講師の著書など、関連展示を開始した。

この年は、八戸市営バス創業80周年記念の年である。そこで10月の読書週間行事として、「公共交通を楽しもう！・八戸市営バス80周年のあゆみ」と題した展示を行った。あわせて八戸市交通部運輸管理課職員による講演会「バスの過去・現在・未来」を開催した。

12月、図書館法に定められた「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に従い、八戸市図書館の運営方針を策定、次の3つを掲げた。

- ・「図書館資料の充実を図る」
- ・「図書館サービスの充実向上を図る」
- ・「関係機関との連携強化を図る」



138年 主な出来事

- 4月 展示「健康に関する本」「おもわず笑っちゃうユーモア絵本」
- 5月 展示「むかしばなし絵本」「天体観測を楽しむ」「ベストセラー28年」「世界遺産を巡る」「あおり再発見」「追悼吉村達也・モーリス・センダック」
- 5月 「八戸市民大学講座」関係の展示を始める
- 6月 展示「金星の太陽面通過」「環境問題」を考えよう」「追悼新藤兼人」「食」を考えよう！「語学を身につける」「資格を取る」
- 7月 展示「追悼赤江瀑」「芥川賞・直木賞受賞作品」「ロンドンオリンピック特集」
- 8月 展示「山菜を探ろう！」「お役立ち健康情報」特集
- 9月 展示「ビジネス書特集」「魚釣り特集」「サイエンスっておもしろい！」「ミステリー本」大特集
- 10月 展示「旅をしよう！」「写真を撮ろう！」「追悼丸谷オー」
- 10月 読書週間「公共交通を楽しもう！・八戸市営バス80周年のあゆみ」
- 11月 展示「食欲の秋おすすめ本」「家事・暮らしお役立ち本」「追悼藤本義一」「海外小説を楽しむ」「冬を楽しむ」
- 12月 展示「あったか料理本」「追悼正部家種康」
八戸市図書館運営方針を策定
- 1月 展示「まだまだ新刊！2012年出版本」「日本の年中行事を学ぶ」
- 2月 展示「追悼安岡章太郎・常盤新平」「お菓子づくり」「温泉めぐり」「NHK大河ドラマ関連本」「知識を広げよう」
- 3月 展示「新しいことにチャレンジ！」「あれから2年 東日本大震災」「自分を元気づける本」「春休みおすすめ本」「追悼北原亞以子」



1 ユーモア絵本展
 2 3 八戸市営バス80周年のあゆみ展
 4 東日本大震災展

東日本大震災で津波被害を受けた種差海岸が、国立公園に編入され「三陸復興国立公園」として指定された。これを記念し、11月の読書週間に展示「種差海岸の魅力再発見!本で見る種差海岸」を行い、宮沢賢治の詩「八戸」や、江戸時代に描かれた海岸の絵図などを展示した。あわせて講演会「種差海岸に魅せられた文人たち」(種差観光協会会長・柳沢卓美氏)を開催し、種差を訪れた文人のエピソードなどを紹介した。

3月、児童書のうち、昔話を題材とする本を一ヶ所に集めて、児童昔話コーナーを設置した。

同月、八戸の中心街にある八戸ポータルミュージアムはっちに、図書館の返却ポストを設置し、返却の利便性の向上を図った。利用者の中には、図書館で借りた本を中心街のカフェで読み、はっちのポストに返却するというルーティンを組み方もいた。



139年 主な出来事

- 4月 岩手県洋野町・九戸村と図書館の相互利用を開始
- 4月 展示「馬場のぼる」「武士に学ぶ」「追悼今邑彩・殊能将之・佐藤亜有子」「お出かけ・行楽の本」「ことばを楽しむ絵本」
- 4月 展示「種差海岸関連資料展～国立公園指定決定～」
- 5月 展示「世界遺産を巡る」「山を楽しむ!」「ベストセラー29年」「消費者保護を学ぶ」「追悼佐藤洋」
- 6月 展示「食について考える」「追悼なだいなだ」「I LOVE アニマル」「快適な暮らし お役立ち本」「作って、食べて、おいしいスイーツ」
- 8月 展示「夏祭り本」「趣味を増やそう!」「名作絵本」「寺山修司没後30周年」
- 10月 展示「追悼小寺隆韶・山崎豊子・連城三紀彦」「コミュニケーション力をUPしよう!」「思い出づくり」
- 11月 読書週間「種差海岸の魅力再発見!本で見る種差海岸」、講演会「種差海岸に魅せられた文人たち」(種差観光協会会長・柳沢卓美氏)
- 11月 秋の朗読会「三浦文学を楽しむ」
- 11月 展示「追悼連城三紀彦」「家事・暮らしお役立ち本」「小型絵本」「秋の夜長にエッセイはいかが?」
- 12月 展示「作ってあそぶ 飾って楽しもう!」「追悼辻井喬・やなせたかし」
- 1月 展示「まだまだ新刊!2013年出版本」「健康な体づくり本」
- 2月 展示「追悼小林カツ代・坂東真砂子・山本兼一」
- 3月 展示「追悼まどみちお」「八戸の20人」「句をおいしく」
- 3月 児童昔話コーナー設置
- 3月 八戸ポータルミュージアムはっちに返却ポスト設置



1 なつのおはなし会
2 寺山修司没後30周年展
3 種差海岸の魅力再発見展
4 クリスマスおはなし会

2014.4 → 2015.3
平成26年度

7月、ブックスタート事業を開始した。これは、先天性(現乳児)股関節脱臼検診時に、赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせを行い、楽しい体験とともに絵本をプレゼントするという、赤ちゃんの幸せを願う行う事業である。

この年は、八戸藩開藩350年の記念の年にあたり、秋の読書週間行事のテーマとした。10月に、藩に関連する図書を展示したほか、11月には所蔵する古文書の展示や講演会を開催した。



140年 主な出来事

- 4月 展示「追悼安西水丸」「声を鍛える!」「いろんな生き物ふしぎ」「JICA関連」「このはなし、知ってる?むかしばなし絵本」
- 5月 展示「お部屋も気持ちもスッキリ!」「追悼渡辺淳一」「ベストセラー30年」「身近な仕事 再発見!」「ジメジメをぶっ飛ばせ!(梅雨対策)」
- 6月 展示「お気に入り作りに挑戦!」「はじめて本特集」
- 7月 ブックスタート事業開始
- 7月 展示「みんな大好き!キャラクターの秘密」「古典に親しむ」「追悼深田祐介」「図書館職員おすすめ本～ブッククーポンでなに買おう?～」
- 8月 展示「子どもと楽しむ本特集」「マナーUP本」「おすすめティーンズ本特集」「心の授業本」「秋に持ち越さない 夏バテ解消本」
- 9月 展示「追悼稲葉真弓・山口洋子」「出版40周年「おしいれのぼうけん」「追悼古田足日」
- 10月 展示「「ミステリー本」大特集」「体を動かし、健康になろう!」「おばけ・ようかい本」「音楽×暮らし」
- 10月 読書週間「八戸藩開藩350年を読む」展
- 11月 読書週間「八戸藩開藩350年記念古文書」展
- 11月 展示「日本語の魅力!」「追悼赤瀬川原平」「忍者の世界」
- 12月 展示「追悼高倉健・香月日輪」「暖」(暦と年中行事を楽しもう)
- 1月 展示「まだまだ新刊!2014年出版本」「追悼宮尾登美子」
- 2月 展示「こだわる人のお菓子づくり」「追悼陳舜臣・赤瀬川隼・河野多恵子」「全国学校図書館協議会・選定「よい絵本」」「シリーズ絵本大集合!」
- 3月 展示「追悼火坂雅志・松谷みよ子・タラスティラー」「緑と触れ合う」「JICA国際協力」



1 2ブックスタート
 3 八戸藩開藩350年を読む
 4 よい絵本展

三浦哲郎氏に関する資料が、立花義康氏の遺族から寄贈された。立花氏は三浦氏の同級生であり、私信なども多く残されていた。これらの資料を10月、読書週間行事として展示した。あわせて三浦哲郎文学顕彰協議会事業部長の宮忠氏による、寄贈資料についての講演会を開催した。また、三浦文学の朗読会も開催した。



141年 主な出来事

- 4月 展示「和の魅力再発見」[国際アンデルセン賞]「追悼今江祥・白川道・船戸与一」
- 5月 展示「建築入門」「[新訳]本もどうぞ」「追悼車谷長吉」「♡ラブストーリー♡」「奥深い図鑑の世界」
- 5月 春のおはなし会「南部弁の昔がたりとパネルシアター」(八戸童話会・佐々木和子氏)
- 6月 展示「思い出をカタチにしよう」「楽しく♪エコライフ」「追悼高橋治」「映像化された本たち」「お部屋スッキリ!」「ブッククーポンで何買おう?」
- 7月 展示「三島由紀夫賞・山本周五郎賞」「おばけ・ようかい・こわーいはなし」「美味しいお酒とおつまみ」
- 8月 展示「芸人本」「ホラー&サスペンス」「いのちの闘病記」「追悼鶴見俊輔、出口裕弘、阿川弘之、柳原良平」
- 9月 展示「絵本作家かこさとし」「ファンタジーの世界へ」「本で世界を旅しよう!」「本のほん」
- 10月 展示「小説×アート」「もっと知りたい!ノーベル賞」「ハッピー・ハロウィン!」
- 10月 読書週間「作家・三浦哲郎」展、講演会「三浦哲郎文学資料と立花義康」(三浦哲郎文学顕彰協議会・宮忠氏)、秋の朗読会「三浦文学を楽しむ」
- 11月 展示「印や版画を楽しもう」「偉人に学ぶ」「追悼佐々隆三・宇江佐真理」「ディック・ブルーナ展～ミッフィー生誕60周年～」「おすすめノンフィクション本」
- 12月 展示「ダブルクラウン作品集」「追悼水木しげる・高田宏・杉本章子・内海隆一郎・野坂昭如」「本屋大賞」
- 1月 展示「まだまだ新刊!2015年出版本」「温かい飲み物をどうぞ」「心に響く、大人向け絵本」「芥川賞・直木賞受賞作品」「イチオシ新書」
- 2月 展示「第5回調べる学習コンクール入賞作品展」「よくわかる〇〇本」「手紙を贈ってみませんか」「追悼佐藤初女・井上洋介・津島佑子」「お仕事小説」「犬がすき♡猫がすき」
- 3月 展示「花よりだんご」「海外文学イッキ読み!」「3.11の記憶～東日本大震災から5年～」「オススメ文庫本」「舞台は図書館&本屋さん」「からだを動かそう!」「新生活応援!」



1 春のおはなし会

2 秋の朗読会

3 三浦哲郎展

2016.4 → 2017.3
平成28年度

八戸の詩人村次郎の生誕100年を記念して、10月の読書週間行事で「村次郎展」を開催した。村氏が収集した蔵書や、青森県近代文学館から借用したパネルなどを展示した。

12月、「八戸本のまち」構想の拠点となる八戸ブックセンターがオープンした。オープニングイベントにあわせ、関連図書の展示などを行った。

3月、現図書館が開館した年から営業していた喫茶「らいぶらりい」が営業を終了した。



142年 主な出来事

- 4月 展示「キーワードは冒険!探検!」[マンガとアニメーション]「芸能人が書いた本」[郷土の児童文学]
- 5月 展示「再発見!!東北」[はじめようDIY]「追悼戸川昌子」[気になるビジュアル図鑑]「NHK朝ドラ本」
- 5月 春のおはなし会「南部弁の昔語り」(梶谷伸夫氏)
- 6月 展示「今日から絵描き!」[司馬遼太郎 没後20年]「自然をまもるエコな暮らし」[謎を解け!ミステリー]「マイブッククーポン～本と出会おう!～」
- 7月 展示「使いこなそうパソコン&スマホ」[暑さに負けない夏レシピ]「追悼永六輔」
- 8月 展示「追悼大橋巨泉・中村紘子」[戦争と平和]「夏にひんやりこわい話」[昭和の歌謡と映画]「なつかしの昭和」[宮沢賢治生誕120周年]
- 8月 「遠山家日記」が県重宝に指定
- 9月 展示「キッズブッククーポン～絵本と出会おう～」[追悼太田大八]「いきいきシニアライフ!」[現代を読む]
- 10月 展示「スポーツの秋」[美味しいものがたり]
- 10月 読書週間「生誕百年記念 村次郎」展
- 11月 講演会「村次郎さんの人柄について」(村次郎の会・仁科源一)
- 11月 展示「スキルアップ応援!」[日本の文豪]「本で旅する世界の絶景」
- 12月 展示「みんなの介護」[年末年始お役立ち本]「冬のあったか手づくり本」
- 12月 八戸ブックセンターオープニング記念関連展示「土地と声ー木村友祐、菅啓次郎、温又柔、石田千一」
- 1月 八戸ブックセンターオープニング記念関連展示「司修と三浦哲郎」
- 1月 展示「まだまだ新刊!2016年出版本」[バレンタイン]
- 2月 展示「アツい!時代小説」[シェイクスピア～没後400年～]「追悼三浦朱門・佐藤さとる」[こんな本もあるよ!]「読む聞く、落語」
- 3月 展示「追悼ディック・ブルーナ・まついのりこ」[日本・世界の昔話]「癒しの本」[グリーンのある暮らし]
- 3月 喫茶「らいぶらりい」営業終了



1 郷土の児童文学展
 2 夏のおはなし会
 3 村次郎展

市制88周年となるこの年は、八戸の「8」が重なる年ということで様々な記念行事が行われた。図書館では、三浦哲郎に関する資料880点を公開することとし、デーリー東北新聞社と三浦哲郎文学顕彰協議会と共催し、10月、デーリー東北ホールで特別展「三浦哲郎の作品とその素顔」と題して展示会を行った。あわせて三浦哲郎文学顕彰協議会副会長・森林康氏によるギャラリートーク「三浦文学と南部の風土」や、中高生による朗読会などを行った。

12月、八戸圏域連携中枢都市圏で連携している8市町村内にある図書館で、相互利用の協定を結んだ。8市町村は八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町である。



143年 主な出来事

- 4月 展示「かわいいペット大集合」「ともだちってなあに?」「追悼大岡信」「ふわふわパンの本」「馬場のぼる生誕50周年!」「11ぴきのねこ」「心地よい住まいとくらし」「おとうさんおかあさんだいすき!」
- 5月 展示「市制施行88周年記念「八戸市のあゆみ」」「図書館員が選んだ いちばん!読んでほしい・借りてほしい本 図書館員大賞」「警察×ミステリー」
- 6月 展示「チャレンジ エコライフ」「俳句・川柳始めてみませんか!」「子育て応援!」
- 7月 展示「海も山も!アウトドア」「パンダの世界をのぞいてみよう!」「食べて元気に!夏レシピ」「追悼日野原重明」
- 8月 展示「意外と知らない皇室」「夏はやっぱり、おぼけ」「南郷名画座タイアップ展「片桐はいりさんがやってくる!!」」「わくわく絵本を見つけよう!」「おはぎ、と言えばスイーツ」
- 9月 展示「異常気象や自然災害に備える」「心豊かにシニアライフ」「知っているようで知らない日本の○○」「先取り三浦哲郎」
- 10月 展示「秋になれば、アートがやってくる」「才能有り?ヒネル俳句、ヨム短歌」「追悼今井絵美子」
- 10月 市制施行88周年記念事業特別展「三浦哲郎の作品とその素顔 立花義康氏収蔵資料を中心に」(デーリー東北ホール)
- 11月 展示「秋の紅葉と絶景を探して」「音楽と文学は友達」「日本の伝統行事と和の暮らし」「時代は、時代小説だ!」「縄文ってなんだろう?」
- 12月 展示「なにがでるかな?しかけ絵本」「師走、正月、ゆく年、来る年、大忙し。」「追悼早坂暁・赤染晶子・葉室麟」
- 12月 八戸圏域連携中枢都市圏8市町村内図書館の相互利用簡便化
- 1月 展示「まだまだ新刊!2017年出版本」「2017年を振り返る」「冬がアツい絵本」
- 2月 展示「世界にひとつだけ、手作りの味」「忍-SHINOBI-」「追悼石牟礼道子」「銀幕の中に芸術がある」「青春の一冊」
- 3月 展示「わくわく、ドキドキ、冒険だ!」「イキモノがたり!」「地元」の「地元本」-青森県の出版社-「ご長寿ものがたり」「追悼内田康夫」



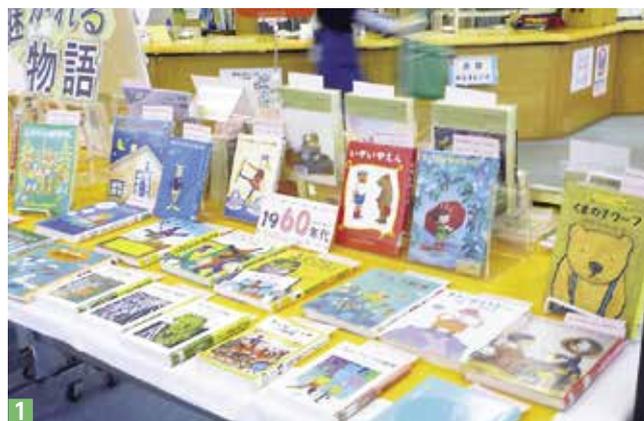
1 特別展会場(デーリー東北ホール)
 2 特別展テープカット
 3 展示・著作一覧

2018.4 → 2019.3
平成30年度

八戸市読書団体連合会(通称、市読連)が昭和42年に発足してから50年になることを記念し、10月の読書週間には、「祝・創立50周年!(一社)八戸市読書団体連合会活動紹介」展を開催した。市読連はもともと、市立図書館及び移動図書館を利用する読書グループの連合体として組織され、図書館に事務局が置かれていた。昭和59年に法人化し、図書館から独立した組織となった。展示では、所属している読書グループ16団体の紹介や、それまでの受賞歴などを紹介した。

開館から
144年 主な出来事

- 4月 展示「生きてこそ!」「さあ、みんなで、出かけよう!」「今どきテクノロジー」「国際アンデルセン賞受賞・角野栄子」「超!名作～読み継がれる物語～」
- 5月 展示「追悼古川薫・かこさとし」「生き方いろいろ」「食べて、動いて、元気!」「11ぴきのねこ」出版50周年記念・馬場のぼるの本(八戸ブックセンター共催)
- 6月 展示「地球が泣いている!」「追悼津本陽」「探偵ものがたり」「東理夫(デーリー東北新聞社連携)
- 7月 展示「緑にふれるあう」「響く言葉」「夏を乗り切る」
- 8月 展示「NHKスペシャルからみえてくること」「戦争と平和」「宮沢賢治」「南郷名画」「夜空を見上げて」「追悼さくらももこ」
- 9月 展示「これって知ってる?雑学関連本」「食欲の秋おすすめ本」「お気に入りの絵本を探そう」「教科書名作文学～小・中学生編～」
- 10月 展示「手に取らずにはいられない気になるタイトル特集」「馬場のぼる作品集刊行記念図書展示」「ノーベル賞の世界」「魔法の本大集合!」「追悼長部日出雄・藤木俱子」
- 10月 読書週間「祝・創立50周年!(一社)八戸市読書団体連合会活動紹介」展
- 11月 展示「大活字本～大きな文字の本～」「おもしろ知識絵本」「大人も子どもも作っちゃおう」「青森県ゆかりの作家たち」「全米図書賞記念多和田葉子」「心にしみる本」
- 12月 展示「ぐりとぐら誕生55周年」「いわさきちひろ生誕100年」「赤い鳥創刊100年」「名著×○○訳」「年末年始お役立ち本」「たのしく冬ごもり」
- 1月 展示「てまりの世界」「縁起本de新年を縁起よく!」「追悼宮川ひろ・和久峻三・梅原猛」「まだまだ新刊!2018年出版本」
- 2月 展示「追悼橋本治・堺屋太一」「平成をふりかえる」「学び直しは児童書で」「ティーンズコーナー知ってますか?」
- 3月 展示「追悼ドナルド・キーン・上野紀子」「図鑑を使って再発見!」「日本語を鍛えよう」「読む・聞く落語」



1 超!名作展
 2 春のおはなし会
 3 八戸市読書団体連合会活動紹介展

4月から「障がい者等郵送貸出サービス」を開始した。これは、重度の障がい等により、図書館や移動図書館を利用できない方を対象に、配送による貸出しを行い、より多くの方に本に触れあう機会を提供するものである（現障がい者等配送貸出サービス）。

7・8月、土曜日の開館時間を1時間延長する試みを行った。試みは平成21年度にも行っており、利用者数がほとんど変わらないという、前回と同様の結果となった。

12月、市制施行90周年にあわせて、展示「図書館資料でみる八戸市のあゆみ」を開催した。これまで刊行された周年記念誌や新聞記事などのほかに、図書館の歴史を振り返る内容も展示した。

3月、全国的に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が広まり、感染者が図書館を利用したことが報告され、臨時休館となった。



開館から

145年 主な出来事

- 4月 「障がい者等郵送貸出サービス」開始（のち障がい者等配送貸出サービスに改名）
- 4月 展示「懐かしい昭和と平成」「大切なあなたへ薦める青春の一冊」「はらぺこあおむし生誕50周年」
- 5月 展示「心に効く本」「追悼阿部牧郎」「南部むらさき染め」
- 5月 講演会「本ができるまで 私のスタイル」（高森美由紀氏）
- 6月 展示「追悼島守光雄・田辺聖子」「快適な暮らし お役立ち本」「本屋さんへ行くぞ!」
- 7月 展示「高校生直木賞」「夏だ!三社大祭だ!!」
- 7月 夏のおはなし会「南部弁のむかし話とわらべ唄」（南部昔コキャラバン隊）
- 7月 7・8月土曜日開館1時間延長試行
- 8月 展示「大人のための怖い話」「八戸港開港80周年記念」
- 9月 展示「本で世界を旅する」「2020年度必修化に向けて～やってみようプログラミング～」追悼佐藤雅美・池内紀「動物愛護週間～命の大切さを学ぶ～」
- 10月 展示「読み聞かせおすすめ絵本」「もっと知りたい!ノーベル賞」「太宰治生誕110周年」「ハッピー・ハロウィン!」
- 10月 読書週間「作家・三浦哲郎」展
- 11月 展示「げいじゅつにふれてみよう」「高森美由紀新刊発行記念展」「冷えを改善」「向田邦子生誕90周年」「追悼盾村卓」「ほっこり温まる本」「郷土の味」
- 12月 展示「お正月準備特集」「『ハリー・ポッターと賢者の石』日本語版刊行20周年」「芥川賞・直木賞八戸出身作家ダブルノミネート記念!」
- 12月 「体験!子ども図書館員」
- 12月 市制施行90周年記念展示「図書館資料でみる八戸市のあゆみ」
- 1月 展示「まだまだ新刊!2019年出版本」「地図を開いてみよう!」「南部の暦」
- 2月 展示「ティーンズコーナーからおすすめ本」「追悼藤田宜永・野村克也」「〇〇視点から見た□□」「情報化社会に備える」「思い出を残そう」
- 3月 展示「心に寄り添う本」「長谷川町子生誕100年」「追悼古井由吉・勝目梓・別役実」「八戸の郷土かるた」
- 3月 新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館（3/27～5/11）



1 はらぺこあおむし生誕50周年展

2 夏のおはなし会

3 体験!子ども図書館員

2020.4 → 2021.3
令和2年度

5月、前年度から新型コロナウイルス感染症の流行により休館していたが、感染症対策を行い再開した。

実施した対策は、次のとおりである。

- 館内出入口・フロア出入口・トイレ前など館内各所に消毒液を設置。
- 開館前の消毒作業のため、開館時間を9時から10時に変更。
- 窓口職員のマスク・手袋の着用。
- 一部窓の常時開放に加え、一時間ごとに窓を開閉し空気を入れ替え。
- 午前・昼・午後館内各所を拭き取りにより消毒。
- タッチパネル操作用にペンを設置し、随時消毒。
- 記載台の鉛筆を使用前後で分け、随時消毒。
- 図書除菌機の設置。
- カウンター前に飛沫防止のビニールカーテンを設置。
- 動線や並ぶ位置を掲示し、利用者同士の間隔を確保。
- 外出の機会を少なくするため、貸出冊数を10冊に、期間を22日間に変更。
- 長時間滞在を避けるため、2階フロアの使用停止。



146年 主な出来事

- 5月 11日から開館
展示「おうち時間を楽しもう!」
- 6月 展示「エコな暮らし」
- 7月 展示「読む青春、感じる夏」「古閑裕而レコード展示」「マイブッククーポンおすすめ本」
- 8月 展示「短編・アンソロジー特集」「赤羽末吉生誕110周年記念展」
- 9月 展示「こころを癒す本」「明智光秀と戦国時代」
- 10月 展示「シャガールの世界」
- 11月 展示「三浦哲郎没後10周年」「トリセツ集めました」「1964年東京オリンピック展」
- 12月 展示「追悼2020」「気になる!マニアックなタイトル特集」
- 1月 展示「追悼鈴木登紀子・半藤一利・安野光雅」「シンプルイズベスト白い本」「読本事典の世界」
- 2月 展示「GFって何?」「まだまだ新刊!2020年出版本」
- 3月 展示「3.11の記憶～東日本大震災から10年～」「折ったり切ったり」



1 マイブッククーポンおすすめ本展
2 赤羽末吉生誕110周年記念展
3 三浦哲郎没後10周年展
4 3.11の記憶展

9月1日、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大したため、学習席等、2階を閉鎖し、1階で貸出・返却のみ対応することとした。しかし、年が明けても流行は収まらず、1月24日から3月6日まで休館。3月7日からは、1階で貸出・返却のみ対応した。

開館から
147年 主な出来事

- 4月 展示「働く」とは?」「ふしぎなふしぎな生きものの世界」「追悼 橋田壽賀子・三好徹」「親子de作家」「本の中の図書館」
- 5月 展示「ルーツを探る」「意外と知らない図鑑の世界」「絵図で楽しむ八戸～江戸までの旅」
- 6月 展示「追悼エリック・カール・立花隆」「〇〇の父と呼ばれた偉人たち」「読んでみよう!三浦哲郎」
- 7月 展示「この夏、どう過ごそう?」「縄文ってなんだろう?」「追悼 那須正幹」「新収蔵資料展」
- 8月 展示「意外と知らない!?文豪の素顔」
- 9月 展示「こころの健康」「ときめく図鑑」「〇〇の秋!」
- 9月 新型コロナウイルス感染拡大防止のため2階閉鎖(1階で貸出・返却のみ対応)
- 10月 展示「追悼山本文緒」「おうち時間で作って遊ぶ」
- 10月 読書週間「三浦哲郎～生誕90周年・芥川賞受賞60周年記念～」
- 11月 展示「アートに触れてみよう!」「追悼瀬戸内寂聴」「懐かしいあの頃へ」「祝!世界遺産登録!北海道・北東北の縄文遺跡群」
- 12月 展示「ふゆによみたい本」「追悼新井満」「絵本・児童書から学ぶ人権週間」
- 1月 展示「健康について考える～養生しよう～」追悼星亮一・笹本稜平「いきものに学ぶ」
- 1月 新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館(1/24～3/6) 1階貸出・返却のみ再開
- 3月 展示「心を癒す本」「手紙と語る」「追悼松岡享子・石原慎太郎・西村賢太・西村京太郎」



1 本の中の図書館
2 読んでみよう! 三浦哲郎
3 4 三浦哲郎～生誕90周年・芥川賞受賞60周年記念～
5 2階閉鎖中



開館から

148年 主な出来事

- 4月 展示「追悼ひろさちや」「花でつくる?花をつくる?フラワークラフト」「本で世界を旅しよう!」「遠山家日記からみる冬の年中行事」(2階閉鎖により前年度より延期)
- 5月 展示「ピーターラビット出版120周年展」「物語の中のどうぶつたち」「今からでも遅くない デジタルを知ろう」「追悼早乙女勝元」「未知の児童書」「八戸中心街について」
- 6月 展示「考えよう!地球のミライ」「日本再発見!」「男女共同参画」を知る」
- 7月 展示「馬場のぼるの世界」「〇活、始めました。」「近世八戸藩の学校」
- 8月 展示「知っておきたい世界のこと」「語ることでみえること 対談集」
- 9月 展示「こころ温まる本」「追悼稲盛和夫」「モノから見た歴史」「八戸の天然記念物」
- 10月 展示「秋を満喫!!」「ミステリーを楽しむ～犯人はだれ?～」「追悼山脇百合子」「整う」「悩みながら働くあなたへ」
- 11月 読書週間「高森美由紀作品展」
- 11月 「雑誌付録抽選会」開催
- 11月 展示「アツイ!時代小説」「田村義三郎と消防ポンプ車」
- 12月 展示「しかけ絵本～ファンタジーの世界へ～」「追悼なかのひろたか」「本で振り返る2022」
- 1月 展示「追悼加賀乙彦・藤井旭」「ありのままに」「まだまだ新刊!2022年出版本」「ご存じですか?」「地域情報誌コーナー」
- 1月 「体験!一日図書館員」
- 2月 展示「手作りを楽しもう!」「追悼永井路子・籾木蓮」「自動車のこと これからのこと」「あの人を知ろう～伝記を読む～」「防災のススメ」
- 3月 展示「追悼大江健三郎」「あなたが最初の読者になりませんか?」「このおはなし知ってる?」「菱刺し」

令和4年度

2022.4 → 2023.3

4月11日、臨時閉鎖していた2階を開放し、通常通りの開館となった。

11月の読書週間行事として、「高森美由紀作品」展を開催した。高森氏は三戸町出身・在住の作家であり、三戸町立図書館に勤務していた。展示では、著書のほか、高森氏へインタビューし、子供の頃に好きだった本や、図書館職員と作家の両立についてなど、内容をQ&A方式で展示した。



1



2



3



4

- 1 夏のおはなし会
- 2 雑誌付録抽選会
- 3 高森美由紀作品展
- 4 体験!一日図書館員

本館・南郷図書館・図書情報センターの3館にWi-Fi環境を整備し、誰でも自由に利用できるようにした。

7月、3館合同で八戸ポータルミュージアムはつちを会場として、「七夕おはなし会」を開催、読み聞かせや折り紙工作体験などを行った。

11月の読書週間行事では、「羽仁もと子生誕150周年記念」展を開催した。羽仁もと子は八戸出身で、日本初の婦人新聞記者とされる。雑誌『家庭之友』（のち『婦人之友』）の創刊や、自由学園を創立した。展示では、関連本のほか、戦時中の『婦人之友』も並べ、普段見ることでできない資料が市民の目を引いた。

2月、市民の情報・知の拠点として、地域の実情に応じた図書館運営を目指すため、12年ぶりに八戸市図書館運営方針を改定した。

冷房設備等更新工事のため、3月1日から8月7日まで長期休館した。休館中は、移動図書館の運行、移動図書館車庫での臨時貸出、YSアリーナ八戸で新聞・雑誌等の閲覧を行った。



開館から

149年 主な出来事

- 4月 展示「追悼坂本龍一・畑正憲・富岡多恵子」[話題の新ジャンル華文小説]「おでかけしよう♪」[牧野富太郎と八戸]
- 5月 展示「図書館の本のヒミツ」[春のカラダメンテナンス]「大切なあなたへ薦める青春の一冊入賞作品展」[まちでみかける気になるアレ]「追悼海野弘・原京」[CD展示]「おともたのしもう!!」[図鑑のせかい]
- 6月 展示「地球にやさしい生活」[デジタルお役立ち本特集]「すきま時間に読める!ショートストーリー」[追悼平岩弓枝]
- 7月 展示「夏をEnjoy!」[人が建てた物]「絵本探偵・小野明さんセレクト絵本」[ブックセンター連携]「戦時下の八戸」
- 7月 本館Wi-Fi設置
- 7月 3館合同七夕おはなし会
- 8月 南郷図書館・図書情報センターWi-Fi設置
- 8月 展示「ソクゾク!こわいを楽しもう」[追悼森村誠一]「ハッピーアニマル」[CD展示]「なつかしき郷土のおと」[今日は何の日?]
- 9月 展示「こころをほぐす」[〇〇の世界]「八戸にオペラを!」
- 10月 展示「ティーンズおすすめ本特集」[縄文の魅力]「〇〇のなぞを解く!」[おいしい本大集合!]
- 11月 読書週間「羽仁もと子生誕150周年記念」展
- 11月 「体験!一日図書館員」
- 11月 展示「追悼酒見賢一」[体験!一日図書館員作成のPOP展]「追悼伊集院静」[郷土の文学者北村小松]「犯人は誰?推理小説特集」
- 11月 Web利用カードサービス開始
- 12月 展示「気ままにエッセイ」[関連本集めてみました!][「私」を見つけた女性たち]「追悼三木卓・山田太一」
- 1月 あおもり冬の読書週間 県内図書館等一斉展示「ウチの推し本」
- 1月 展示「本屋大賞作品展」
- 2月 八戸市図書館運営方針を改定
- 2月 展示「手作りを楽しもう♪」[まだまだ新刊!2023年出版本]
- 2月 公式Xアカウント開設
- 3月 本館・冷房設備等更新工事のため休館(3/1~8/7)



1



2



3

- 1 図書館の本のヒミツ展
- 2 3館合同七夕おはなし会
- 3 体験!一日図書館員

2024.4 → 2025.3
令和6年度

図書館150周年の記念の年となった。節目の年のシンボルとして、ロゴマークを製作。図書館を上空から見た形、2つの四角形を重ねた八芒星をイメージしたデザインとした。

8月から市職員全員の名札を、ロゴマークを入れた150周年を祝うデザインにした。

10月には図書館で、11月からは市役所でパネル展を開催、記念の講座として10月に「読本・近代挿絵の絵師と作品について」(八戸クリニク街かどコミュニティアム館長・小倉学氏)、11月に「八戸市立図書館の源流―大仲間・八戸書籍縦覧所―」(東北大学東北アジア研究センター・鈴木淳世氏)を開催した。

また、連携事業として八戸市民大 学講座で、5月に作家・石田衣良氏を、7月に歴史学者・本郷和人氏を招いて記念講演をいただいた。

2月には、八戸市読書団体連合会、八戸ブックセンターと連携し、ジャーナリスト・池上彰氏を招いて講演会を行うとともに、本と雑誌のリサイクルフェアやパネル展を開催した。

開館から
150年 主な出来事

- 4月 休館中の臨時貸出を開始
- 5月 八戸市民大講座150周年記念講演「作家が語る「大人の本の楽しみ」」(石田衣良氏)
- 7月 八戸市民大講座150周年記念講演「戦国時代に学ぶ 現代を生き抜く力」(本郷和人氏)
- 8月 図書館再開
- 10月 150周年記念パネル展開催
- 10月 市民のための歴史講座150周年記念講演「読本・近代挿絵の絵師と作品について」(小倉学氏)
- 11月 市民のための歴史講座150周年記念講演「八戸市立図書館の源流―大仲間・八戸書籍縦覧所―」(鈴木淳世氏)
- 2月 150周年イベント(SG GROUPホールはちのへ)

知ってる? 八戸市立図書館 150年の歴史

八戸市立図書館は、明治7年(1874)に八戸書籍縦覧所ができたことに始まります。その後、八戸市立図書館、八戸市立図書館と変わっていき、令和6年(2024)に150周年を迎えました。

江戸時代から本の貸し借り
江戸時代の八戸藩には、藩士たちや商人、職人などが本を貸し借りする「貸物所」という団体がありました。江戸・大阪・京都などで出版された本は、八戸で手に入るにはとてもお高かったため、みんなでお金を出しあって本を買い、貸し借りしながら読んでいました。八戸には、古くからの貸し借りが盛れていたことになりました。

日本最古級の図書館
そんな貸物所は、明治時代に近くなる自分たちの本を一所にまとめ、貸し借りできる場所をつくることになりました。そうして出来たのが八戸書籍縦覧所です。現在の施設とつながりを持つ近代図書館の前身、明治初年(1875)につくられた八戸藩立貸付図書館が由来になっています。東洋・京都に次いでついでに五つ目の館と書かれています。当時貸し借りされていた本は、現在も八戸市立図書館に残っています。

いろいろな図書館が一つに
八戸書籍縦覧所には、明治13年(1880)につくられた73ヶ所村立八戸藩立、明治29年(1896)につくられた八戸藩立貸付図書館が統合されています。そして、大正5年(1913)に八戸市立図書館となり、昭和4年(1929)に八戸市が誕生したことで、八戸市立図書館となりました。

図書館の建物
八戸書籍縦覧所は、八戸市の公共施設を有効活用してつられました。2階建ての建物は、江戸・明治・大正・昭和と4つの時代を通して100年以上使われてきました。八戸市立図書館の建物は、昭和4年に八戸市の校舎を再利用しました。この建物は明治44年(1909)に明治天皇が八戸に上られたときの行宮(御休憩所)としても使われた由緒ある建物です。現在は市内の藤引八幡宮に移され、明治記念堂として残されています。八戸市立図書館の建物は、昭和36年(1961)に今までの通り、図書館として一からつくりました。なんと日本で初めてとなる全鉄筋コンクリート造りを取り入れました。

八戸市立図書館のいま 「集まる つながる 応がる 楽しむ 育む 図書館」

目指す未来
集まる 集まる 集まる 集まる 集まる
つなぐ つなぐ つなぐ つなぐ つなぐ
応がる 応がる 応がる 応がる 応がる
楽しむ 楽しむ 楽しむ 楽しむ 楽しむ
育む 育む 育む 育む 育む

八戸市立図書館 150年の歴史

八戸市立図書館の歴史を振り返る。150周年を記念して、様々なイベントや展示を開催しています。

八戸市立図書館のいま

「集まる つながる 応がる 楽しむ 育む 図書館」

目指す未来

集まる 集まる 集まる 集まる 集まる
つなぐ つなぐ つなぐ つなぐ つなぐ
応がる 応がる 応がる 応がる 応がる
楽しむ 楽しむ 楽しむ 楽しむ 楽しむ
育む 育む 育む 育む 育む



1 150周年紹介ポスター
2 150周年紹介チラシ
3 図書館でパネル展示
4 グッズ(トートバッグ・クリアファイル・ブックしおり・アクリルスタンド)



【資料】150周年記念事業

150周年記念ロゴマーク

若い世代や子ども達にもアピールする
楽しくて明るいロゴマーク



八戸市立
図書館
1874 } 2024



八戸市立
図書館
1874 } 2024

ロゴマークのデザインは、図書館建物の特徴的な八芒星^{はちぼうせい}の形や150周年とわかる言葉をモチーフに作成した。記念誌、記念グッズ、八戸市職員ネームプレートの作成など関連事業に合わせて展開。

150周年パネル展

150年の歴史を市民に広く周知して、
更なる図書館の利用を促進

八戸市立図書館、八戸市庁本館1階エントランスホール及びSG GROUP ホールはちのへにおいて開催。

今につながる日本最古級の 八戸書籍縦覧所

江戸時代の読書グループ「書物仲間」は、明治時代になると自分たちの本を一か所にまとめて、貸し借りできる場所をつくることになりました。そして出来たのが八戸書籍縦覧所です。現在の施設とつながりを持つ近代図書館のうち、明治7年(1874)6月15日に開館した縦覧所は、東京・京都に次いで3番目に古いものだったと言われています。当時貸し借りされていた本は、現在も八戸市立図書館に残っています。

建物は物見建物

縦覧所をつくるにあたって、建物をどうするかという話になりました。そこで、旧八戸藩のお殿様に願い出て、旧八戸城の北西にあった、1階を文庫部、2階を物見部屋として使っていた四間半×四間(約8.2×7.3m)の2階建ての建物を使うことになりました。建物は、八戸小学校の敷地内に移され、「八戸書籍縦覧所」となりました。

秘密じやない結社「弘観舎」

「大仲間」は、縦覧所をつくる時に新たな仲間をたくさん募集しました。そして、元の大仲間43名に新規103名を加えた146名で、結社「弘観舎」をつくりました。弘観舎は、縦覧所を運営していきました。

蔵書

縦覧所の蔵書には、旧大仲間の書籍のほかに、藩学校で使用されていた洋書の教科書が含まれています。その書籍には「藩願図書」と「弘観舎」の印が押されていたり、八戸洋学校蔵版と刷れた書籍に「弘観舎」の印が押されていたりしています。明治13年(1880)には、7,546冊が所蔵されていました。

八戸書籍館

明治13年、八戸町を含めた周辺7ヶ町村立の八戸書籍館が縦覧所に併設され、弘観舎と一緒に運営していきます。※書籍館は、明治時代に使われたlibraryの訳語です。

八戸青年会図書館

明治28年(1895)、縦覧所の運営が弘観舎から八戸青年会に委ねられると、縦覧所は青年会があった厩屋小路に移設されました。そして、八戸青年会図書館が縦覧所に併設されることになりました。

八戸書籍縦覧所
八戸小学校「実地形跡図」より

「藩願図書」印と「弘観舎」印のある書籍
「八戸文庫」印と「弘観舎」印のある書籍

江戸時代から八戸でおこなわれていた 「本」の貸し借り

江戸時代の八戸藩には、藩士たちや商人・町人などが本を貸し借りする「書物仲間」という団体がありました。江戸・大坂・京都などで出版された本は、八戸で手に入れるには、とても高価だったので、みんなでお金を出して本を買って、貸し借りしながら読んでいました。書物仲間には、武士だけで結成された「大仲間」と、武士のほか商人や町人も参加した「小仲間」、軽米(若手県軽米町)で作られた「軽米仲間」がありました。

大仲間

大仲間は、もともと「仲間書物無尽」と呼ばれていました。定員は43名で、家老の中屋敷から、敷金によって武士となった家商・石橋家(西町屋)まで幅広い層が、時代とともに入れ替わりながら参加していました。大仲間が読んでいた書籍は、幕末時点で5,076冊でした。特に多い分野は、軍書・兵書で、「太平忠実全」や「甲陽軍鑑」などが読まれていました。ほかに、四書や五経などの茶字字や、「古事記」などの歴史書も読まれています。

小仲間

小仲間は、「本仲間」「並仲間」「町仲間」というグループで構成されていました。「本仲間」は本会員で、小仲間の中心メンバーです。「並仲間」は準会員で、本を読むためには「見附」というお金を払う必要があり、借附などが参加していました。「町仲間」は、商人によって結成された会員で、「並仲間」と同じく「見附」を払って本を読んでいた。天保6年(1835)時点で、146名以上の会員がいたことがわかっています。小仲間が読んでいた書籍には、抗討物や藩蔵本、読本といったものが多くありました。ほかに、軍書や教訓書もありました。

軽米仲間

大仲間や小仲間は、八戸城下町周辺で結成された会でしたが、八戸藩ではそれ以外の地域でも書物仲間が結成されていたようで、軽米通には「軽米仲間」があったことがわかっています。これらの書物仲間は、相互に影響をもって八戸藩での貸借ネットワークを形成し、本を貸し借りするという文化を醸成し、今の図書館における貸借に続いています。

大仲間が読まれていた本
「大仲間書物」の印
小仲間が読まれていた本
「小仲間」の印
「本仲間」の印
「書物仲間」の印

日本初！ 書庫がない図書館



蔵書数が増えてきたことで、新しい図書館をつくる計画が立ち上がりました。今までは、すでにある建物を図書館に改修してきましたが、新たに一からつくりたいと、日本図書館協会の施設委員会に設計を委託しました。その結果、昭和36年(1961)に日本で初めてとなる書庫がない全面開架式の図書館ができました。

場所は、堤町にある更上閣の隣でした。

八戸市立図書館 | 堤町 |

利用時間	5~10月	【一般室】 9~20時 土曜日15時まで 日曜日17時まで (10月は16時30分まで)
		【児童室】 13時~17時 土曜日15時まで 日曜日休み
	11~4月	【一般室】 9~19時 日曜日16時30分まで (10~2月は16時まで)
		【児童室】 13時~16時 土曜日15時まで 日曜日休み
		毎月月末は貸出無し
休館日	祝日、年末年始	
貸出冊数	2冊まで	
貸出期間	8日間	



昭和初期の八戸市立図書館



児童室1

児童室2



児童室

図書

八戸市立図書館(堤町)の建物は、当時の最先端であり、後の日本図書館建築に大きな影響を与えたとされています。この建物は、現在の場所へ図書館が移転した昭和59年(1974)以降も、更上閣別館として様々な用途で使われてきましたが、平成20年(2008)に岩手県沿岸北部地震で被災しました。図書館として運営中にも十勝沖地震(昭和43年・1968)で被災し修復されましたが、2度目の大地震には耐えられず、使用不能となってしまいました。

さらに、平成23年(2011)の東日本大震災を経て、平成28年(2016)に取り壊されました。



十勝沖地震により崩壊して倒壊した様子



図書館跡地(過去像・平成28年撮影)

八戸町立図書館と 八戸市立図書館



大正2年(1913)、八戸青年会が無期休会することになり、弘観舎の蔵書を引き継いだ八戸町立図書館が誕生しました。その後、昭和4年(1929)に八戸町が紋村・湊町・小中野町と合併し八戸市が誕生したことにあわせて、八戸市立図書館となりました。これを機に、江戸・明治・大正・昭和と4つの時代を通して100年以上使われてきた2階建ての建物から、新しい建物に図書館を移すことになりました。

八戸町立図書館

この頃の図書館は、書籍を読むことを館内に限定していました。職員は書記1人でした。希望者は書記に氏名を名乗り、読みたい書籍を申請します。その後は書籍の前で正産し、書記監視のもとで閲覧していたと言われています。



開館時間	【4~9月】 9~17時	【10~3月】 9~15時	【日曜日】 9~16時
休館日	第1月曜日、祝日 12月29日~1月5日、9・10月中の凡そ10日間(雑音)		
閲覧冊数	3冊以内とし1種3冊まで		
利用規定	満12歳以上		

※館内持ち出し禁止

八戸市立図書館 | 堀端町 |

八戸市誕生とともに、八戸尋常小学校の講堂を再利用して八戸市立図書館としました。この建物は、明治14年(1881)に明治天皇が八戸にお越しになったときの行在所(休憩場所)としても使われた由緒ある建物でした。現在は、市内の橋引八幡宮に移され、明治記念館として残されています。



昭和初期の八戸市立図書館



1階 事務室



1階 お知らせ



2階への階段と雑誌コーナー



2階 閲覧室



明治記念館

150周年パネル展

図書館本館と分室



八戸市立図書館(本館)

昭和59年(1984)に、新築移転しました。階層ごとに正方形を45度ずらした八芒星の形で、3階建てです。また、江戸時代からの歴史資料を保管する古文書庫も設置しています。

開館	【月~金】 9:00~19:00	【土・日・祝日】 9:00~17:00
電話	0178-22-0266	
施設概要	貸出図書、おはなし会室、新聞閲覧コーナー、資料閲覧室、郷土資料コーナー、読書コーナー、古文書庫、ほか	



分室

市内の公民館などに設置され、地域ボランティアの皆さんに支えられて、週1~2回の貸し出しをしています。(貸し出しは、8日間、5冊まで。) ※図書を借りるときは、各分室で発行する利用カードが必要です。また、図書は借りた分室へ直接お返しください。

鯉分室(鯉公民館内)

開館	【水・土】 13:00~16:00
電話	0178-33-1942(鯉公民館)



昭和46年(1971)に分室1号として開設。誌録の新聞や、子ども向けの本もあるアットホームな雰囲気の分室。

上長分室(上長公民館内)

開館	【火・金】 13:30~16:30
電話	0178-23-3237(上長公民館)



絵本を増やして子育てを応援したり、リクエスト本の声かけに力を入れたり、利用者とのふれあいを大切にしています。

根城分室(根城公民館内)

開館	【土】 13:30~16:00
電話	0178-44-6927(根城公民館)



白で統一されたきれいな図書館。本の種類が豊富で、年代でコーナーを分け、図書が探しやすく、利用者からも好評。

湊分室(湊公民館内)

開館	【水・土】 13:00~16:00
電話	0178-33-4411(湊公民館)



湊小学校や湊保育園近くの公民館の中であり、利便性抜群!読みたい本のリクエストもOK!

館分室(館公民館内)

開館	【水・金】 14:00~16:00
電話	0178-27-5433(館公民館)



平成28年(2016)に公民館の建て替えできれいで広くなった図書室に、約5000冊の本がある。

是川分室(是川団地中央集会所)

開館	【土】 13:00~16:00
----	-----------------



昭和51年(1976)に開設。当初の名称は「ななかよし文庫」。是川小学校が近くにあり、小学生の利用も多く、児童書の蔵書は、6分室が一番多い。

みんなの夢をのせて 移動図書館のあゆみ



図書館から離れた地域の方にも本を届けようと、昭和41年(1966)から移動図書館車(Bookmobile)の運行を開始しました。開始当初は、地域のお母さんたちが作った読書グループが主な利用者でした。はじめは10グループほどだった団体が、開始半年で50グループを超え、市内各地に移動図書館車が回るようになりました。

初台 ブックモビルみちの号

みちの号は、小型トラックを改造したものでした。車の外側についていた本棚が小さく650冊しか積むことができなかったため、本を入れた箱を追加で積んで移動し、到着すると車の外に箱を出して貸出していました。そのため、雨や雪の日では巡回ができませんでした。



外観

運転中

2台目 ブックモビルはちの号



外観

テアプカット

2台目は、昭和52年(1977)から運行しました。大型トラックを改造したもので、車内にも棚があり2,500冊もの本を運ぶことができました。これで、本を地面に置かずに運ぶことができるようになり、雨や雪の日も巡回できるようになりました。

3台目 ブックモビルはちの号



外観

3台目は、平成4年(1992)から運行しました。棚をさらに増やして2,700冊を積めるようになりました。

4台目 ブックモビルはちの号

平成22年(2010)から運行しているのが、現在のはちの号です。3,500冊を積んで、市内のステーションを月1回、巡回しています。



外観

TOPICS

移動図書館は、古くは「巡回文庫」と呼ばれていました。八戸で最初の巡回文庫は、伊古商店(現・伊古書店)の伊古巡回文庫で、明治43年(1910)には、三戸郡内32か町村の小学校を回っていたといわれ、全国的に見ても早い事例でした。

図書館(本館)においてよ!

— その2 —



図書館を使った調べる学習コンクール

子どもたちが自ら考え学ぶ意欲と、情報活用する力を育てるために、小中学生を対象に毎年開催しています。また、作成のサポートするために、図書館員が調べる学習の相談を受ける「夏休み調べる学習相談会」や、実践形式で学ぶ「調べる学習チャレンジ講座」を開催しています。上位入賞者は、全国コンクールに推薦しています。



体験!一日図書館員

小・中学生の皆さんに、館内見学やカウンター業務の体験をとおして、図書館をより知ってもらうとともに、本に親しみきっかけとなるよう開催しています。

毎回大受好評で、すぐに定員に達してしまう人気の企画です。



学校図書館出前講座

図書に関する理解や関心を深めてもらうため、図書館職員が小中学校を訪問し、学校図書館の図書の活用や読み聞かせの方法等について、児童・生徒、先生、ボランティアスタッフを対象に、講座を実施しています。



本のまち八戸ブックフェス

はっちやマチニワ、ブックセンターなど中心市街地を会場に、吉本市のほか、市内書店や飲食店も出店する「本のまち八戸」の一大イベント。図書館からは移動図書館車が出動し、本の貸し出しや読書体験・写真撮影会などを行っています。



古文書解読講習会

図書館で所蔵している古文書に親しんでもらえるよう、そして古文書に書かれた文字「くずし字」を解読できる人材を育てるため、毎年開催しています。



正解は、「図書館公式文」大図150周年

図書館(本館)においてよ!

— その1 —



図書館(本館)では、図書の貸し出しはもちろんのこと、より多くの皆さんに図書館を利用してもらうため、様々な企画やイベントを実施しています。参加したことがないイベントがあれば、この機会にぜひ参加してみたいかですか。皆さんのご来館をお待ちしています!

企画展示

季節・行事・時事問題など多様なテーマで図書を集め、来館者が図書を手取りやすい展示コーナーを作っています。また、市民大学講座や美術館の企画展など、市内のイベントと連携したタイムリーな展示を行っています。(写真は、「充実!シニアライフ」)



おはなし会

毎週木曜日と土曜日に、紙芝居や絵本の読み聞かせを行っています。また、クリスマスや七夕などにあわせて、季節のおはなし会も開催しています。読み聞かせは、ボランティアの皆さんと協働で実施しています。

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
参加人数	1,059人	186人	541人	894人	1,173人
開催回数	130回	24回	99回	163回	177回

ブックスタート事業

赤ちゃんと保護者が絵本をとおして、ゆっくり心ふれあひとさを持つきっかけ作りのため、平成26年度から実施しています。

乳児健診脱臼検診後(対象:市内の生後90日~1歳の誕生日前の赤ちゃん)に、ボランティアが読み聞かせを行い、絵本をプレゼント!



本と雑誌のリサイクルフェア

図書館で除籍した図書・雑誌のほか、市民の皆さんから提供された本を無償でお持ち帰りいただけます。毎年多くの方が来場する人気のイベントで、開始前から長蛇の列!

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
参加人数	393人	323人	316人	358人	411人
提供冊数	5,950冊	5,026冊	5,066冊	5,749冊	6,139冊

150周年パネル展

八戸市史編纂事業



『○○県史』や『○○市史』という本を見たことがあるでしょうか。このような、地域の歴史についてまとめた本を自治体史と呼びます。自分たちが住んでいる地域の歴史を知り、後世に伝えていくために全国各地で編纂が行われています。

第1期 八戸市史

『八戸市史』の編纂事業は、八戸市制30周年記念事業とすべく、昭和31年(1956)に始まり、当初、昭和4年(1929)八戸市となつてからの30年をまとめた近代史編となる計画でしたが、見直し、八戸開市三百年記念事業(八戸藩ができてから300年)として昭和40年(1965)に市史編纂委員会が組織されました。この編纂事業は、昭和44年(1969)3月の史料編 近世1刊行から、昭和51年(1976)3月の通史編を経て、昭和57年(1982)3月の史料編 近世10をもって完了しました。



第1期 史料編10冊 通史編1冊

第2期 新編八戸市史

『新編八戸市史』の編纂事業は、第1期から研究が進んだことや、『八戸市史』史料編が江戸時代しか取り上げていなかったこともあり、平成8年(1996)に新たな市史編纂準備委員会が組織されました。その後、平成10年(1998)に八戸市史編纂室が設置され、本格的に動き始めました。

平成17年(2005)3月、第1巻目となる自然編を行います。表紙には、南部地方特産の筍節葉を基本色として、南部葉刺しのデザインを施しました。刊行事業は、平成27年(2015)3月に完了し、その後の事業は、歴史資料グループに引き継がれました。



第2期 史料編14冊 通史編3冊

市史以外の研究成果

市史を作成するため、何年もかけて調査・研究が行われました。これにより蓄積された内容は膨大で、刊行された市史だけではとても収まりませんでした。

そこで、成果を市民に還元するため、平成11年度(1999)から『八戸の歴史双書』、平成14年度(2002)から『はちのへ市史研究』、平成15年度(2003)から『八戸市史収集文書目録』の刊行を始めました。



八戸の歴史双書

『新編 八戸三社大祭』などの祭典や、八戸藩藩政史記などの資料集



はちのへ市史研究

研究内容等をまとめた論文形式の報告書(全7冊)



八戸市史収集文書目録

収集した古文書などの目録(全17冊)

すべて八戸市立図書館で閲覧することができます。販売書籍は、図書館、八戸ブックセンター及び市内書店で購入できます。

南郷図書館・図書情報センター



南郷図書館

平成17年(2005)2月に南郷村立図書館として開設し、同年4月に南郷村と八戸市が合併して、八戸市立図書館の分館になりました。マスコットキャラクターの「ふるちゃん」と「ふるおくん」は、南郷の特産品ブルーベリーをイメージしています。

開館時間	【月~金】9:00~19:00 【土・日・祝日】9:00~17:00
電話番号	0178-60-8100
施設概要	開架図書室、おはなしのびわ、ジュニアコーナー、児童書閲覧コーナー、三浦文学の部屋 ほか



■ スウィングベリーおはなし会
毎年夏と冬の2回、南郷文化ホール(愛称: スウィングベリー-NANGO)と共同で開催。平成22年(2010)に始まり、令和6年(2024)8月で30回目を迎えました。スクリーンに絵本を投影し、音楽や照明などを使った演出とともに、読み聞かせを行います。

■ めいぐるみのおとまり会
絵本に親しみきっかけを作るイベントとして、平成23年(2011)から実施。参加者からお気に入りのめいぐるみをあずかり、そのめいぐるみが泊りがけで図書館のお仕事をします。めいぐるみは、参加者のために選んだ絵本と一緒に帰ってきます。さらに、めいぐるみが働いている姿を撮影した写真をプレゼント!

図書情報センター

平成14年(2002)11月、東北新幹線開業に合わせ、八戸駅ビル1階に開設。駅の乗降客の利用が多いという特性から、DVD・CDの視聴覚資料のほか、新聞、雑誌、郷土資料も数多く揃え、新しい情報を提供しています。

開館時間	【月~金】10:00~20:00 【土・日・祝日】10:00~18:00
電話番号	0178-70-2600
施設概要	開架図書室、インターネットコーナー、新聞・雑誌コーナー、映像・音響ブース ほか



■ オリジナルキャラクターの活用
日本十進分類法(NDC)を擬人化した「分類男女」による、おすすめ本や図書の分類の豆知識を紹介しています。さらに、図書館で働くカンヅメが主人公のお仕事マンガ「歌でカンヅメ」(略称: 歌カン)では、図書館のお仕事や舞台裏を紹介しています。

■ 地域密着型の取組と情報発信
地元プロスポーツチームの活躍を、図書館でよりクリッピング資料で発信。さらに、近隣高校の短歌・俳句作品を展示するなど、地域密着型の取組を実施しています。八戸三社大祭や八戸八ふりのDVDを上映し、八戸の歴史や魅力を情報発信しています。



第2章

市史編纂室 の歩み

第1期 第2期

1956→2015

『八戸市史』の編纂事業は、市制30年記念事業とするべく、昭和31年(1956)に郷土史家・小井川潤次郎に嘱託して始まった。

当初、八戸市が始まった昭和4年(1929)から30年分をまとめた近代編として計画されていた。

しかし、計画を見直し、八戸開市三百年記念事業(八戸藩が成立してから300年)として、昭和40年(1965)に市史編纂委員会が組織された。

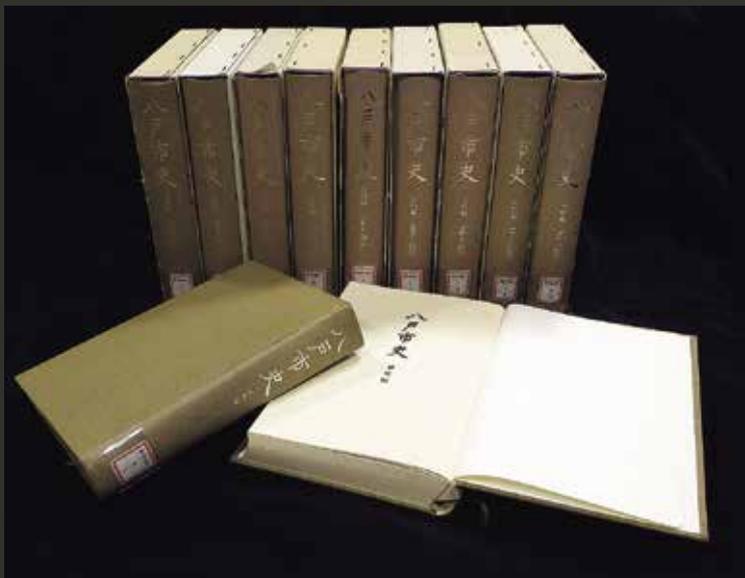
この委員会による編纂事業は、昭和44年

(1969)3月の『八戸市史』史料編近世1の刊行から、昭和51年(1976)3月の通史編を経て、昭和57年(1982)3月の史料編近世10の刊行をもって、史料編10冊、通史編1冊の計11冊として完結した。

史料編は、江戸時代を「八戸藩日記」を根本資料とし、年月日順に一つ書き形式で記述している。通史編は、縄文時代から昭和20年(1945)までを記述している。

◆八戸市史(刊行リスト)

発行年度	書籍名
S43	八戸市史 史料編 近世1 寛文2年～元禄5年
S45	八戸市史 史料編 近世2 元禄6年～宝永3年
S46	八戸市史 史料編 近世3 宝永4年～正徳5年
S48	八戸市史 史料編 近世4 享保元年～享保10年
S50	八戸市史 通史編
S51	八戸市史 史料編 近世5 享保11年～宝暦6年
S52	八戸市史 史料編 近世6 宝暦7年～安永9年
S53	八戸市史 史料編 近世7 天明元年～享和3年
S54	八戸市史 史料編 近世8 文化元年～文政年12年
S55	八戸市史 史料編 近世9 天保元年～嘉永6年
S56	八戸市史 史料編 近世10 安政元年～明治4年

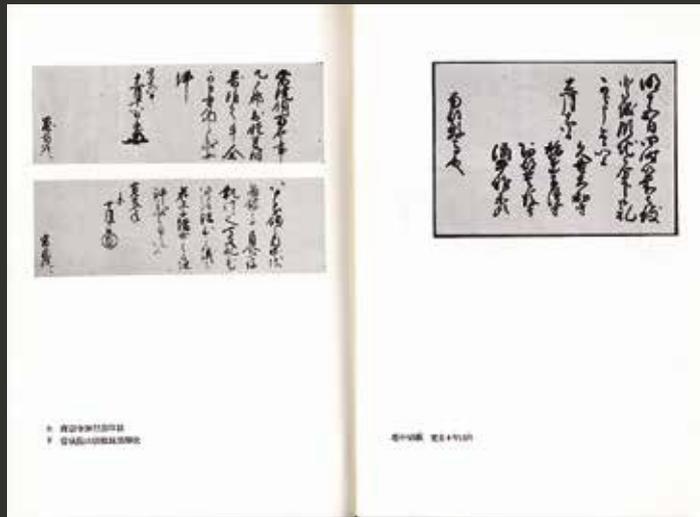


『八戸市史』全巻
(全11冊 史料編10冊・通史編1冊)

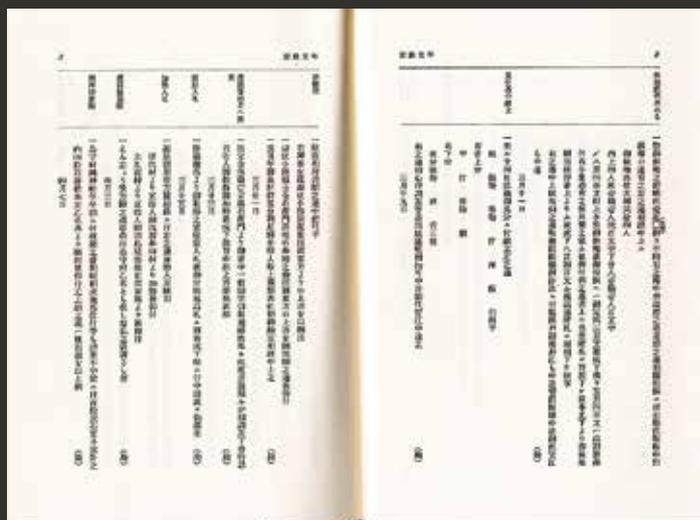


題字は、八戸市史編纂委員会の監修者である岩手大学名誉教授 森 嘉兵衛氏の揮毫。

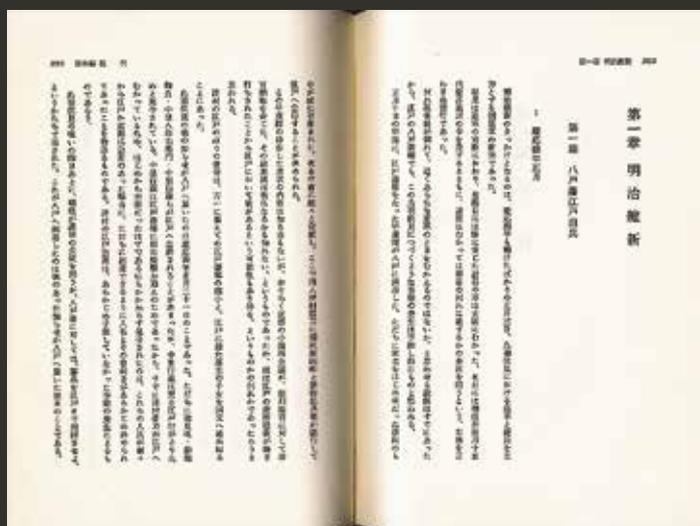
◆八戸市史



史料編(口絵)



史料編(本文)



通史編

この時の市史では、「明治時代から」を「現代」と時代区分していた。「新編八戸市史」では、「近代」と表記している。

『新編八戸市史』(以下、市史)の編纂事業は、『八戸市史』の刊行から研究が進んだことや、史料編が江戸時代しか取り上げていなかったこともあり、市史編纂の計画が立ち上がった。

平成8年(1996)に市史編纂準備委員会が組織され、平成10年(1998)に市史編纂室を設置、本格的に動き始めた。

市史を作るために行われた調査や、研究により蓄積された内容は膨大で、市史だけではとても収録しきれなかった。そのため、市史以外の方法で市民に紹介することになった。平成11年度(1999)から『八戸の歴史双書』、平成14年度(2002)から『はちのへ市史研究』、平成15年度(2003)から『八戸市史収集文書目録』の刊行を始めた。

そして平成17年(2005)3月、『新編八戸市史』の1巻目となる自然編の刊行となった。

表紙は、南部地方特産の南部紫を基本色とし、南部菱刺しのデザインを施した。

編纂事業は、平成26年度(2014)ま

で、資料編14冊、通史編3冊の計17冊を刊行し完結した。

同26年度に、市史編纂室は解散。収集資料の管理や歴史双書刊行、講座開催などの業務は「歴史資料グループ」に引き継がれた。

◆新編八戸市史 (刊行リスト)

発行年度	書籍名
H16	新編八戸市史 別編 自然編
H18	新編八戸市史 近世資料編Ⅰ
	新編八戸市史 近現代資料編Ⅰ
H19	新編八戸市史 近世資料編Ⅱ
	新編八戸市史 近現代資料編Ⅱ
H20	新編八戸市史 考古資料編
	新編八戸市史 近現代資料編Ⅲ
H21	新編八戸市史 近現代資料編Ⅳ
	新編八戸市史 民俗編
H22	新編八戸市史 近世資料編Ⅲ
H23	新編八戸市史 近現代資料編 都市計画
	新編八戸市史 近現代資料編 戦争
	新編八戸市史 地誌編
H24	新編八戸市史 通史編Ⅱ 近世
H25	新編八戸市史 中世資料編
	新編八戸市史 通史編Ⅲ 近現代
H26	新編八戸市史 通史編Ⅰ 原始・古代・中世



表紙



内表紙

『八戸市史講座』

通史編の刊行にあわせ、周知・販売促進のために、執筆者や研究者を招いて講座を開催した。

平成25年度は通史編Ⅱを、平成26年度は通史編Ⅲをテーマとした。

前述のとおり市史編纂室解散後は、歴史資料グループが業務を引き継いだため、継続して平成27年度は通史編Ⅰをテーマとして開催した。

平成28年度は、八戸三社大祭のユネスコ無形文化遺産登録に向けて八戸三社大祭をテーマとしたほか、売れ行き的好調な地誌編をテーマとした、まち歩きを開催した。

平成29年度もまち歩きを継続するとともに、通史編Ⅱをテーマとした講演も行った。

平成30年度は民俗、平成31(令和元年)度は通史編Ⅲをテーマに講演を開催。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により延期し、令和3年度に通史編Ⅰをテーマとして開催した。

令和3年度までに、通史編に関する講

演会を各巻2度行い、平成29年度に通史編Ⅱ、令和元年に通史編Ⅰをそれぞれ増刷するなど、周知・販売促進の目的は達成した。

そのため、令和4年度から、市民に郷土への興味関心を持ってもらうことに重点をおき、八戸市博物館で行っている「市民講座」と連携して共通のテーマを設定し

た。年4回の講座へ改新した。新しい講座は、図書館と博物館の講座名を統合し「市民のための歴史講座」とした。

◆通史編Ⅰ～Ⅲ



通史編Ⅰ



通史編Ⅱ



通史編Ⅲ

◆刊行ポスター



近世資料編Ⅰ
近現代資料編Ⅰ



近世資料編Ⅱ
近現代資料編Ⅱ



考古資料編
近現代資料編Ⅲ

年度	回	演題	講師（肩書は開催当時のもの）	
平成 25 年度	1	八戸藩の鉄山とたたら製鉄	斎藤 潔	市史編集室 嘱託員
	2	近世八戸を襲った飢饉と災害	七崎 修	八戸歴史研究会 会員
	3	鹿児島から来た最後の藩主 - 南部信順がみた幕末の八戸 -	本田 伸	青森県立郷土館 研究主幹
	4	八戸藩の参勤交代と幕府への勤め	岩淵 令治	学習院女子大学 教授
	5	八戸藩の海運と交易	渡辺 英夫	秋田大学 教授
	6	藩政改革と百姓一揆～寛政7年久慈通百姓一揆を中心に～	中野渡一耕	八戸歴史研究会 会員
	7	農山村の生業と環境 - 大豆と馬を中心に -	菊池 勇夫	宮城学院女子大学 教授
	8	八戸藩の宗教	藤田 俊雄	八戸市史編集室 室長
	9	八戸藩の成立と初期の藩政	熊谷 隆次	八戸工業大学第二高等学校 教諭
	10	八戸の風土が生んだ安藤昌益	三浦 忠司	八戸歴史研究会 会長
平成 26 年度	1	戦後八戸 文化のスタート	山根 勢五	八戸ペンクラブ 顧問
	2	日本鉄道と八戸	差波亜紀子	法政大学 兼任講師
	3	八戸の港づくり - 明治・大正・昭和 -	小瀧 勇	八戸ペンクラブ 会員
	4	戦後八戸経済史概説	田中 哲	八戸学院大学 教授
	5	八戸のモダンガールズ	島守 光雄	元八戸大学教授
	6	昭和の戦争と八戸	本田 敏雄	八戸工業高等専門学校 名誉教授
	7	八戸の近現代史に登場する人と思想	渡部 高明	ノースアジア大学 准教授
	8	八戸市の都市計画事業のあゆみ	宮本 利行	百石高等学校 教諭
平成 27 年度	1	糠部の成立とその特徴	柳原 敏昭	東北大学大学院 教授
	2	南北朝動乱と根城南部氏 - 師行・政長から政光まで -	菅野 文夫	岩手大学 教授
	3	棟札・鯨口からみる戦国の八戸	熊谷 隆次	八戸工業大学第二高等学校 教諭
	4	縄文時代の八戸	村木 淳	是川縄文館 参事
	5	八戸地方の古代社会	宇部 則保	是川縄文館 参事
	6	鎌倉時代糠部の世界	七海 雅人	東北学院大学 教授
	7	去来する研究者の軌跡 八戸考古学研究のあゆみ	工藤 竹久	前八戸市博物館館長
平成 28 年度	1	江戸時代の山車人形と練り物	三浦 忠司	八戸歴史研究会 会長
	2	明治から現代の八戸三社大祭	工藤 竹久	元八戸市博物館館長
	3	ふるさとてくてく旅 長者村編	古館 光治	是川縄文館 館長
	4	「山・鉾・屋台行事」 - 期待されるユネスコ無形文化遺産 -	福原 敏男	武蔵大学 教授
	5	三社大祭の山車作り	夏坂 和良	山車絵師
	6	ふるさとてくてく旅 鮫村編	高橋 晃	北奥羽自然史研究所 所長
	7	ふるさとてくてく旅 大館村編	高橋 晃	北奥羽自然史研究所 所長
	8	ふるさとてくてく旅 上長苗代村編	上野 茂樹	青森県統計分析課 総括主幹
平成 29 年度	1	ふるさとてくてく旅 湊村編	高橋 晃	北奥羽自然史研究所 所長
	2	ふるさとてくてく旅 小中野村	高橋 晃	北奥羽自然史研究所 所長
	3	ふるさとてくてく旅 八戸町編	古館 光治	是川縄文館 館長
	4	ふるさとてくてく旅 館村編	古館 光治	是川縄文館 館長
	5	徳川綱吉政権と元禄期の藩政	熊谷 隆次	八戸工業大学第二高等学校 教諭
	6	幕末期の世情と藩政～北へ向かう人々～	中野渡一耕	青森県県民生活文化課県史編さんグループ 主幹
	7	近世八戸の文芸	藤田 俊雄	八戸市立図書館歴史資料グループ 主事兼学芸員
	8	遠山家日記の時代	三浦 忠司	八戸歴史研究会 会長
平成 30 年度	1	八戸の習俗・寺院・神社	上野 未蔵	根城史跡保存会 会長
	2	誤解され失われた信仰～はちのへは川の隠し念仏～	滝尻 善英	青森県文化財保護協会 副会長
	3	八戸の昔話・伝説・世間話	上田 三蔵	前八戸市文化財審議委員
	4	八戸の人生儀礼と郷土芸能	古里 淳	八戸市博物館 館長
	5	南部弁いろいろ	榎谷 伸夫	八戸公民館 館長
	6	近代の大衆文化～お多福座・錦座・新開座、そして凌雲閣～	滝尻 善英	青森県文化財保護協会 副会長
平成 31 年度 (令和元年度)	1	八戸が生んだモダンボーイ・北村小松	滝尻 善英	青森県文化財保護協会 副会長
	2	二宮金次郎像と学校～南部地方を事例に、報徳思想を問う～	小泉 敦	三戸町立杉沢小中学校 校長
	3	昭和の戦争と八戸	本田 敏雄	八戸工業高等専門学校 名誉教授
	4	新しい輸送機関と地域産業 - 明治大正期を中心に -	差波亜紀子	法政大学 兼任講師
	5	八戸近現代史に登場する人と思想 - 主に明治期の政治・教育から -	渡部 高明	ノースアジア大学 准教授
	6	神田重雄と八戸市制施行	宮本 利行	八戸北高等学校 教頭
	7	戦後八戸経済史概説	田中 哲	八戸学院大学 教授
※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、3年度に延期				
令和3年度	1	漆と縄文人	小久保拓也	是川縄文館 縄文の里整備推進グループリーダー
	2	八戸地方の古代エミシの村	宇部 則保	是川縄文館 発掘専門員
	3	清心尼と根城 - 「遠野村替」以前 - ※新型コロナウイルス感染拡大のため、4年度に延期	熊谷 隆次	八戸工業大学第二高等学校 教諭
	4	南部師行と政長	滝尻 侑貴	八戸市立図書館 主査兼学芸員
	5	世界遺産としての県内と八戸の縄文遺跡	工藤 竹久	八戸市文化財審議委員

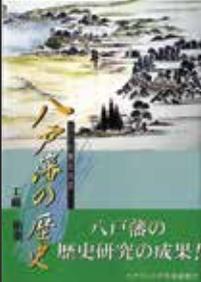
◆八戸の歴史双書（刊行リスト）

発行年度	書籍名
H11	八戸南部史稿
	八戸藩の歴史
H12	八戸藩土系譜書上
	八戸の民俗芸能
H13	八戸の神社寺院由来集
	八戸の安藤昌益
H14	明治・大正の八戸市街図と三戸郡誌
	八戸の女性史
H15	江戸期八戸の日記集
	八戸藩の武芸
H16	八戸藩遠山家日記 第一巻
	近代八戸地方の農村生活
H17	八戸藩遠山家日記 第二巻
	八戸の漁業・近代編
H26	八戸藩遠山家日記 第三巻
	八戸藩遠山家日記 第四巻
H27	概説 八戸三社大祭
H28	八戸藩遠山家日記 第五巻
H29	八戸藩遠山家日記 第六巻
H30	八戸藩遠山家日記 第七巻
H31	八戸藩遠山家日記 第八巻
R2	八戸藩遠山家日記 第九巻
R3	八戸藩遠山家日記 第十巻
R4	八戸藩遠山家日記 第十一巻
R5	八戸藩勤功帳 第一巻

◆読み物シリーズ



概説 八戸三社大祭



八戸藩の歴史(完売)

◆資料集



八戸藩勤功帳 第一巻



八戸藩遠山家日記 第一巻 (全11巻)



八戸南部史稿(完売)

『八戸の歴史双書』
 研究内容をわかりやすく、コンパクトにまとめた読み物シリーズや、調査した資料を翻刻した資料集を刊行した。

◆八戸市史収集文書目録（刊行リスト）

発行年度	書籍名
H15	八戸市史収集文書目録 第1集
H16	八戸市史収集文書目録 第2集
H17	八戸市史収集文書目録 第3集
H18	八戸市史収集文書目録 第4集
H19	八戸市史収集文書目録 第5集
H20	八戸市史収集文書目録 第6集
H21	八戸市史収集文書目録 第7集
H22	八戸市史収集文書目録 第8集
H23	八戸市史収集文書目録 第9集
H24	八戸市史収集文書目録 第10集
H25	八戸市史収集文書目録 第11集
H26	八戸市史収集文書目録 第12集
H27	八戸市史収集文書目録 第13集
H28	八戸市史収集文書目録 第14集
H29	八戸市史収集文書目録 第15集
H30	八戸市史収集文書目録 第16集
R1	八戸市史収集文書目録 第17集

『八戸市史収集文書目録』
 調査の過程で収集した歴史資料(古文書など)をまとめた目録。

八戸市史収集文書目録 (全17集)



◆はちのへ市史研究（刊行リスト）

発行 年度	書籍名		
	種別	執筆者	主題
H14	はちのへ市史研究 創刊号		
	講演記録	渡辺 信夫	「八戸市史に望むもの」
	研究	成田 章	「八戸市の鳥「ウミネコ」の繁殖生態」
	史料紹介	西野 隆次	「寛文9年・松前泰広書状 八戸藩士岡田家の系譜について」
	市史随想	根市 益三	「八戸地方のシダ植物 八戸近辺のシダ」
	市史随想	高橋 晃	「八戸地方のシダ植物 シダ植物の楽しみ」
	収集資料目録	大岡家（八日町）文書	
H15	はちのへ市史研究 第2号		
	研究	堀田 報誠	「八戸の景観 地形からアプローチ」
	研究	渡部 高明	「市町村合併の歴史と地方の動き 八戸地域の合併史の検討を通して」
	研究	古町 周子	「八戸地方の伝統食 風土に規制される自然的な伝統食」
	資料紹介	田鎖 周治	「化石はちのへヘクジラ発掘の経緯」
	講演記録	小林 博行	「思想と歴史－安藤昌益を手がかりに」
	市史随想	東 由紀子	「八戸藩寛文時代の天災と凶作」
H16	はちのへ市史研究 第3号		
	研究	中野渡一耕	「蝦夷地に渡った八戸領民 イシカリ御手作場を中心として」
	講演記録	田代 優子	「羽仁もと子と八戸」
	市史随想	奈良孝次郎	「肥前藩軍艦・孟春丸事件 その経過と考察」
	資料紹介	本田 敏雄	「鮫港築嶼願 明治十二年四月について」
	資料紹介	下村 恒彦	「[囚人秋田より南部へ請取事] 秋田県鹿角市所在の八戸関係資料について」
	資料紹介	林 昌章	「映画フィルム 三十年前の八戸 大正十二年八戸大火前後の記録」
H17	はちのへ市史研究 第4号		
	研究	熊谷 隆次	「近世初期八戸家（根城南部家）の知行所について」
	講演記録	内藤 正敏	「オシラ祭文源流考」
	資料紹介	服部 昭	「青山家と南部漁夫－八戸からの漁業出稼ぎ－（青山家文書より）」
	資料紹介	田中 哲	「八戸呉服木綿商組合「決議録 明治三十四年 第四月吉辰」」
	資料紹介	差波亜紀子	「大正十二年八月神田重雄日記について」
	資料紹介	梅村 淳	「八戸大火後の町 復興の先達 関翁－記録に見る関春茂氏の足跡－」
	資料紹介	小泉 敦	「太平洋～十和田湖～日本海を結ぶ 春秋横断鉄道構想（「大八戸」論）」
H18	はちのへ市史研究 第5号		
	研究	相馬 英生	「八戸湊の飯盛女」
	研究	宮本 利行	「昭和初期の八戸地域における金融危機について～八戸銀行の休業と復活～」
	資料紹介	小泉 敦	「戦時下、八戸の暮らし」（八戸市公報など）」
	市史随想	市川 金丸	「八戸市の調査遺跡の覚え書き 八戸市における戦後の発掘調査について述べる。」
	市史随想	古舘 光治	「古地図と災害」
	講演記録	渡辺 英夫	「東の海と西の海～近世北日本経済の視点から～」
H19	はちのへ市史研究 第6号		
	研究	宇部 則保	「古代集落からみた地域社会の変化」
	研究	滝尻 善英	「お浜入り 神幸祭の今昔」
	研究	藤田 俊雄	「高野山の南部家墓所について」
	資料紹介	伊藤 勝司	「羽仁もと子が書いた西有穆山」
	資料紹介	七崎 修	「八戸藩江戸留守居役・野中鏡与による上方情報収集 付・八戸南部家史料中の西郷吉之助（隆盛）」
	資料紹介	小泉 敦	「[プランゲ文庫]と八戸～占領期の八戸～」
	市史随想	中野渡一耕	「公儀馬買と八戸藩」
	市史随想	古舘 光治	「サ行の反乱」
H20	はちのへ市史研究 第7号		
	研究	宮本 利行	「戦後における八戸地域を中心とする北奥羽開発構想について」
	研究	滝尻 善英	「民俗学からみた祭祀供養～八戸南浜地区の祖先崇拜方法について～」
	研究	高橋 晃	「八戸市南郷区の植物相の概観」
	研究	工藤 竹久	「明治期における八戸三社大祭の風景」
	資料紹介	本田 伸	「『新編文林全集』巻之三と南部直政の教養」
	市史随想	山根 勢五	「〈はちのへ・るねっさんす〉の時代－戦後史を彩った文化活動と人間風景－」
	市史随想	斎藤 潔	「暦あれこれ」
	市史随想	古舘 光治	「種差海岸と国立公園」

『はちのへ市史研究』
研究成果を論文形式で掲載したほか、市
史編纂室の業務報告を収録した。(全7号)



第3章

年

表

1874年～2024年

(明治7年度～令和6年度)

八戸市立図書館 年表

1874年→2024年
(明治7年度→令和6年度)

37	33	30	24	22	21	15	13	8	6	1	0	周
明治44年	明治40年	明治37年	明治31年	明治29年	明治28年	明治22年	明治20年	明治15年	明治13年	明治8年	明治7年	和暦(年度)
1911	1907	1904	1898	1896	1895	1889	1887	1882	1880	1875	1874	西暦
10				6	4	4			9	6	6	月
出来事												
八戸青年会無期休会を宣言、八戸書籍縦覧所・青年会図書館休館												
八戸書籍縦覧所に八戸青年会図書館が併設される												
八戸書籍縦覧所が八戸青年会のある鷹匠小路に移築												
弘観舎、八戸書籍縦覧所の運営を八戸青年会に委託												
八戸青年会結成												
八戸町制施行												
公立八戸書籍館閉鎖、八戸書籍縦覧所に合併												
八戸書籍縦覧所に73ヶ町村立八戸書籍館が併設												
八戸書籍縦覧所に、青森県警察出張所が設置される(明治10年撤去)												
八戸書籍縦覧所創設												
館長(および相当職)												
逸見 興長(世話取締役)												
新宮 興運(世話取締役)												
栃内 吉忠(世話取締役)												
中島 渚(世話取締役)												
逸見 興長(主管)												
新宮 興運(縦覧所管長)												
百島 平(書籍館長)												
中島 左右太(青年会図書館理事)												
佐々木 富三郎(青年会図書館理事)												
北村 恭助(青年会図書館理事)												

82	74	72	71	69	67	64	63	61	60	59	58	57	56	55	54	45	42	39	38	37
昭和31年	昭和23年	昭和21年	昭和20年	昭和18年	昭和16年	昭和13年	昭和12年	昭和10年	昭和9年	昭和8年	昭和7年	昭和6年	昭和5年	昭和4年	昭和3年	大正8年	大正5年	大正2年	大正1年	明治44年
1956	1948	1946	1945	1943	1941	1938	1937	1935	1934	1933	1932	1931	1930	1929	1928	1919	1916	1913	1912	1911
3	1	3	11		7	7		11		4	12		7	5				7	9	2
新会議室を設置	児童室を開設	図書館再開	アメリカ進駐軍が書庫を接收し、図書館は休館		館外貸し出しを始める	『図書目録』刊行		浦山助太郎氏の寄附金によって作られた書庫が併設される		堀端町一番地へ移転	移築工事のため休館		堀端町二番地に移転し、八戸市立図書館と改称	八戸市制施行				八戸町立図書館開館	弘観舎、八戸町に書籍縦覧所の書籍寄附を申し出る	八戸町議会、八戸町立図書館設置を議決
下斗米 豊次郎(館長心得)			浅水 成吉郎	太田 康衛(書記)		工藤 宇三郎(書記)		山田 功(書記)	駒嶺 賢治(書記)	山田 功(書記)	駒嶺 賢治(書記)	内藤 正次(書記)	駒嶺 賢治(書記)		駒嶺 賢治(書記)	前田 利見(書記)	源 晟	中里 幸徳(書記)		北村 恭助(青年会図書局理事)
※この頃、役職として館長を置かず、書記が館長と呼ばれていたという。																				

100	99	98	97	96	95	94	92	89	88	87	84											
昭和49年	昭和48年	昭和47年	昭和46年	昭和45年	昭和44年	昭和43年	昭和41年	昭和38年	昭和37年	昭和36年	昭和33年											
1974	1973		1972		1971	1970		1969	1968		1966	1963	1962	1961	1958							
6	6	3	2	6	12	6	6	1	6	3	9	9	1	10	8	5	7	5	3	4	11	7
八戸市立図書館編『安藤昌益』刊行(伊吉書院発行)	八戸市立図書館100周年	郷土の先人を語るシリーズ『郷土の思想家 安藤昌益 その人と思想』刊行	館分室(当時は分館、館公民館内)開設	是川分室(当時は分館、是川公民館内)が開設	郷土の先人を語るシリーズ『郷土の名僧 西有穆山 その人と年譜』刊行	湊分室(当時は分館、湊公民館内)開設	古文書館(土蔵2階)と新聞閲覧室(土蔵1階)開設	郷土の先人を語るシリーズ『郷土の思想家 江渡狄嶺 その人と年譜』刊行	鮫分室(当時は分館、鮫公民館内)開設	堀端町の旧図書館書庫解体	『奥南新報件名目録』第1巻刊行(前2冊の統合版)	『奥南新報件名目録』第1巻の2刊行(日本十進分類法で350から970まで)	『奥南新報件名目録』第1巻刊行(日本十進分類法で000から348まで)	補修工事完了し堤町で図書館再開	柏崎小学校旧校舎で仮設図書館を開設	十勝沖地震発生、建物損壊し休館	初台移動図書館「ブックモバイルみちのく」号運行開始	『上杉修氏所蔵 郷土資料目録』第1巻刊行	八戸市史編纂委員会(第1期)設置	堤町の図書館開館	堤町に図書館を新築移転するため、休館	辺地の学童を対象に巡回文庫を開設
												小野 久三			下斗米 豊次郎(館長心得)							
												中野 清見										
												小瀬川 充										

115	113	112	111	110			109	108	107			106	105	104	103		102		101		100	
平成1年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和59年			昭和58年	昭和57年	昭和56年			昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和52年		昭和51年		昭和50年		昭和49年	
1989	1987	1986	1985	1984			1983	1982	1981			1980	1979	1978	1977		1976		1975		1974	
2	3	4	9	6	5	4	12	9	3	3	11	3	10	4	3	11	3	6	3	6	3	10
3階書庫を2層式に増築	是川分室(是川公民館内)閉鎖	「上杉家文書」の展示	第1回古文書解読講習会開催	八戸読書団体連合会が館内に喫茶「らいぶらりい」を開店	新築図書館(現図書館)が開館	県内図書館と相互貸借開始	新図書館竣工、図書館休館し、図書の移動を開始	新図書館起工(岡田新一設計事務所、大館建設工業)	『八戸市史』史料編近世10刊行、八戸市史編纂事業終了(第1期)	『八戸市立図書館国書分類目録』三を刊行(国文学研究資料館監修)	新図書館基本構想策定	『八戸市立図書館国書分類目録』二を刊行(国文学研究資料館監修)	東北地区学校図書館大会(八戸市)	長者文庫(長者公民館内)開設	『八戸市立図書館国書分類目録』一を刊行(国文学研究資料館監修)	2台目移動図書館「ブックモビルはちのへ」号が運行開始	『八戸市立図書館漢籍分類目録』を刊行(東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター監修)	是川分室「なかよし文庫」(当時は分館、是川団地内)開設	郷土の先人を語るシリーズ『永遠の教育者 羽仁もと子』刊行	根城分室(当時は根城図書館、根城公民館内)開設	郷土の先人を語るシリーズ『郷土の先達 北村益 その人と年譜』刊行	図書館開館100年を記念し、『八戸市立図書館百年史』刊行
嶋守 耕作		植村 昭二郎								山中 浩一		西村 嘉										小瀬川 充

131	130				129	128			127	126	125	124		122		121	120	119		118	117	116			
平成17年	平成16年				平成15年	平成14年			平成13年	平成12年	平成11年	平成10年		平成8年		平成7年	平成6年	平成5年		平成4年	平成3年	平成2年			
2005	2004				2003	2002			2001	2000	1999	1998		1996		1995	1994	1993		1992	1991	1990			
4	3	3	2	11		11	10	6	1	9		5	4	12	4	8	12		10	11	10	10			
図書館(本館)でCDの貸出開始	『新編八戸市史』別編自然編刊行				図書館ホームページに蔵書検索を作成	八戸市図書情報センター開館			インターネットコーナー設置	「遠山家日記」「真法弟算記」が市文化財に指定	さわやか八戸グッジョブウィークで中学生受け入れ	石万本鍛冶町駐車場に駐車場増設	利用者専用検索端末機設置	八戸市史編纂事業(第2期)開始		駐車場(軽自動車用)増設	貸出冊数を3冊から5冊へ変更	月1回ライブラリー・コンサートを開始	三陸はるか沖地震により書棚が倒れる	ヤングアダルトコーナー設置	冷房増設工事のため休館(10/10～1/16)		3台目移動図書館「ブックモビルはちのへ」号が運行開始	読書週間「あなつす・そさえて」展	八戸大学(現・八戸学院大学)創立10周年記念「日本の古典と各種雑誌創刊号展・八戸市の文学碑展」
			若宮 富久雄						岡沼 宏洲	大入 登					江渡 典弥	漆澤 惇					玉川 恵三	西山 金一			

138	137					136			135			134				133			132		131		
平成24年	平成23年					平成22年			平成21年			平成20年				平成19年			平成18年		平成17年		
2012	2011					2010			2009			2008				2007			2006		2005		
12	3	12	10	6	4	3	7	4		7	4	1	10	4	4		2	6		12	4	4	
八戸市図書館の運営方針策定	南郷図書館に「三浦文学の部屋」を設置	持込パソコン利用席(4席)設置	八戸コーナー、新書コーナー設置	三浦哲郎文学コーナー設置	南郷図書館、CD・DVD貸出開始	東日本大震災で被災	4台目移動図書館「ブックモバイルはちのへ」号が運行開始	岩手県軽米町と図書館等の相互利用を開始	ティーンズコーナー設置	7・8月土曜日開館1時間延長試行	図書館が3館体制になる(本館・図書情報センター・南郷図書館)	大塚甲山文庫コーナー設置	図書館・図書情報センター・南郷図書館の図書館システムを統合	岩手県久慈市・二戸市と図書館の相互利用を開始	図書情報センターで児童図書の貸出スタート	文庫本コーナー設置	国文学研究資料館・八戸市立図書館編『読本事典 江戸の伝奇小説』刊行(笠間書院発行)	インターネット予約メール通知開始	久保節文庫コーナー設置	赤ちゃん絵本コーナー設置	インターネット予約開始	図書館ホームページリニューアル	
								津取場 重行										河村 忠治				若宮 富久雄	

149					148	147			146		145			143	142	141	140		139																																																																																															
令和5年					令和4年	令和3年			令和2年		令和1年			平成29年	平成28年	平成27年	平成26年		平成25年																																																																																															
2023					2022	2021			2020		2019			2017	2016	2015	2014		2013																																																																																															
2	2	11	8	7	11	3	1	9	10	4	3	8	7	4	12	3	4	3	7	3	3	4																																																																																												
八戸市立図書館公式Xアカウント開設					八戸市図書館運営方針を改定					Web利用カードサービス開始					南郷図書館・図書情報センターWiFi設置					本館WiFi設置					雑誌付録抽選会開催					新型コロナウイルス感染拡大のなか、1階貸出・返却のみ再開					新型コロナウイルス感染拡大防止のため2階閉鎖(1階で貸出・返却のみ対応)					新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館(1/24～3/6)					貸出冊数の変更 図書資料…本館・南郷・情報センター・移動図書館 5冊↓8冊 祝聴覚資料・図書情報センター 2点↓4点					「障がい者等配送貸出サービス」に名称変更					新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館(3/27～5/11)					8月土曜日開館1時間延長試行					7月土曜日開館1時間延長試行					「障がい者等郵送貸出サービス」開始					八戸圏域連携中核都市圏8市町村内図書館の相互利用簡便化(八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町)					喫茶「らいぶらりい」営業終了					八戸市史編纂室の業務を引き継ぐ「歴史資料グループ」設置					八戸市史編纂事業(第2期)終了					ブックスタート事業開始					八戸ポータルミュージアムはっちに返却ポスト設置					児童昔話コーナー設置					岩手県洋野町・九戸村と図書館の相互利用を開始				
					野田 祐子										田茂 隆一					掛端 真裕美					千葉 玲子										藤田 俊雄					津取場 重行																																																																										

150																		149					
令和6年																		令和5年					
2024																		2023					
3	2	2	1	12	11	11	11	11	10	10	10	9	8	8	8	7	7	6	5	4	3	3	
150周年事業「フィナーレイベント」(朗読会・ライブライオンコンサート)開催(図書館)	『八戸市立図書館150周年記念誌』刊行	八戸市読書団体連合会主催イベント「読書へのとびら 本のみち八戸魅力創出イベント」(SG GROUPホールはちのへ、講師：池上彰)で、150周年パネル展(第3期)・本と雑誌のリサイクルフェア実施	150周年記念「体験！一日図書館員」開催	150周年記念「クリスマスおはなし会&工作会」開催(八戸ポータルミュージアムはっち)	秋の読書週間行事で「図書館150周年記念展「図書館エトセトラ」」開催	市民のための歴史講座「150周年記念講演「八戸市立図書館の源流ー大仲間・八戸書籍縦覧所ー」(鈴木淳世氏)	150周年記念モデル利用カード発行	150周年記念パネル展(第2期)開催(八戸市庁)	市民のための歴史講座「150周年記念講演「読本・近代挿絵の絵師と作品について」(小倉学氏)	150周年記念パネル展(第1期)開催(図書館)	150周年記念グッズ(トートバッグ・クリアファイル・ブックしおり・アクリルスタンド)作成	150周年記念「八戸市図書館を使った調べる学習コンクール」開催	館内展示「祝150周年 八戸市立図書館を振り返ろう」	市職員全員のネームプレートを150周年記念モデルに変更	図書館再開(8/8)、玄関に150周年記念看板設置	八戸市民大学講座「150周年記念講演「戦国時代に学ぶ 現代を生き抜く力」(本郷和人氏)	150周年記念ロゴマーク作成	八戸市立図書館150周年を迎える	八戸市民大学講座「150周年記念講演「作家が語る「大人の本の愉しみ」(石田衣良氏)」	休館中の臨時貸出を開始、臨時おはなし会を八戸ブックセンターで開始	休館に伴い、新聞・雑誌等の臨時閲覧所開設(YSアリーナ八戸)	本館・冷房設備等更新工事のため休館(3/1~8/7)	
																				磯嶋 奈都子	野田 祐子		

参考文献(順不同)

- 八戸市立図書館百年史編集委員会『八戸市立図書館百年史』八戸市立図書館、一九七四
- 八戸市立長者公民館『八戸市立長者公民館開館10周年記念 長者』一九八七
- 八戸市史編纂室『新編八戸市史 十七年のあゆみ』二〇一五
- 鈴木淳世『近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容―北奥地域の事例研究―』勉誠出版、二〇二〇
- 中村隼人「八戸市立図書館150年の建築」『八戸市博物館研究紀要』第三七号、二〇二四
- 「デーリー東北」デーリー東北新聞社
- 「東奥日報」東奥日報社
- 『東奥年鑑』東奥日報社
- 『月刊はちのへ情報 アミューズ』北方春秋社／アミューズ
- 『月刊ぶれいがいど東北』アートプロ
- 「はちのへ図書館だより」八戸市立図書館
- 「八戸市立図書館館報 八幡馬」八戸市立図書館



開館150周年を迎えた時の八戸市立図書館職員 最前列中央は磯嶋館長

編集後記

開館150年を迎えるにあたり、記録を残さなければならぬと考え、記念誌の刊行を決めた。当館では100周年の際に『八戸市立図書館百年史』という素晴らしい記録書がつけられているため、それ以降の101年から150年を振り返る記念誌とした。

しかし、編集は困難を極めた。記録がなかったり、文字記録はあるが写真がなかったりした年が多かったのである。記録に関しては、日誌が残されていたが、落とし物や人の往来といった日々の業務連絡帳であり、イベント情報がほとんど記されていない。写真に関しては、カメラがネガフィルムからデジタルデータに変わっていった時期であり、ネガの頃は業務報告書に紙焼きされた写真が添付され、デジタル化してからは、写真を白黒印刷して添付されていたりしたが、なにも残されていない年の方が多かった。よって本誌では、「図書館だより」に掲載された写真を使用している。平成の時代になっても白黒写真が多いのは、そのため

である。記録とは、残そうと意識しないと、簡単に無くなっていくものである。学校などの記念誌が10年ごとに発行される理由の一つが、10年でさえ遡るのが難しいことにある。それを今回は、50年を振り返ったのである。筆者は、歴史資料保存を本職とする部署に属しているが、記録を残すということが如何に大事かを改めて実感する。

また、平成24年頃から、館内展示が多くなる。テーマを決め、関連本を集めることで来館者の興味関心を高めることを目的としていた。ただし、記載されている展示がすべてではなく、例えば年末年始には正月関連本といった毎年恒例の季節展示は、ページの都合により省略しており、記載以上の展示を行っていたことをご承知願いたい。

最後に、記念誌を含め150周年記念の各事業にご協力いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、本誌が次の記念事業の参考になることを祈念し、編集後記とする。

歴史資料グループ 主査兼学芸員

滝尻 侑貴

150th

Anniversary

八戸市立図書館
150周年記念誌

令和7年(2025)2月28日発行

編集・発行／八戸市立図書館

〒031-0022

青森県八戸市大字糠塚字下道
2番地1

印刷／川口印刷工業株式会社



八戸市立
図書館
1874 ▶ 2024

Hachinohe
city
library